■ 別冊①

復興・防災マップづくり

学校における実践事例集（第４版）

2023 年 3 月

本事例集に掲載している情報の出所について

鹿妻小学校については，平成 28 年度「1.17 防災未来賞　ぼうさい甲子園応募書類」をベースに作成しています。

大川小学校については，大川小学校からのヒアリングをもとに作成しています。

その他の学校については，「実践的防災教育総合支援事業」（平成 26 年度），「実践的安全教育総合支援事業」（平成 27 年度～平成 29 年度），「学校安全総合支援事業」（平成 30 年度）に掲載されている各校からの報告をもとに作成しています。令和元年度以降については，各校からの報告をもとに作成しています。

石巻市立鹿妻小学校（平成 24 年度～ 30 年度）

第 4 学年　総合的な学習の時間（約 35 時間）

東日本大震災の 1 年半後の平成 24 年度から現在にいたるまで，毎年 4 年生が「総合的な学習の時間」を活用して「復興マップづくり」を実施してきた。4 年生の子どもたちが，「まち歩き」を通して，地震と津波から立ち直りつつある鹿妻小学校周辺の今の様子を記録し続けている。

テ　ー　マ　平成 28 年度「地域復興と防災を考える」
学習テーマが復興から防災へと移行しつつある。

ね　ら　い　児童が危険から逃れるためだけでなく，地域の地理的な条件，環境等を理解し，どのような状況でどのような行動をとって，自分の安全を確保するのかを的確に判断し行動できる力を身に付けさせる。また，地域が復興していく様子を確認することで，今後の防災に役立たせるとともに，地域力の力強い息吹を感じ，地域の未来に展望が持てるようにさせる。

活動の中での工夫

【地域性】
「これからの鹿妻地区を考えよう」をテーマに，まち歩きとマップづくりを行っている。まち歩きでは，子どもたちは地域のお店などを訪れ，震災当時の様子やその後の復興の取組についてインタビューを行い，学区内での震災体験を聞く機会を設けている。発表会に地域の方を招待する，市学校防災フォーラムや防災フォーラムで自主防災組織の関係者に「復興マップ」の取組みを紹介するなど，作成されたマップの学校外への共有が図っている。

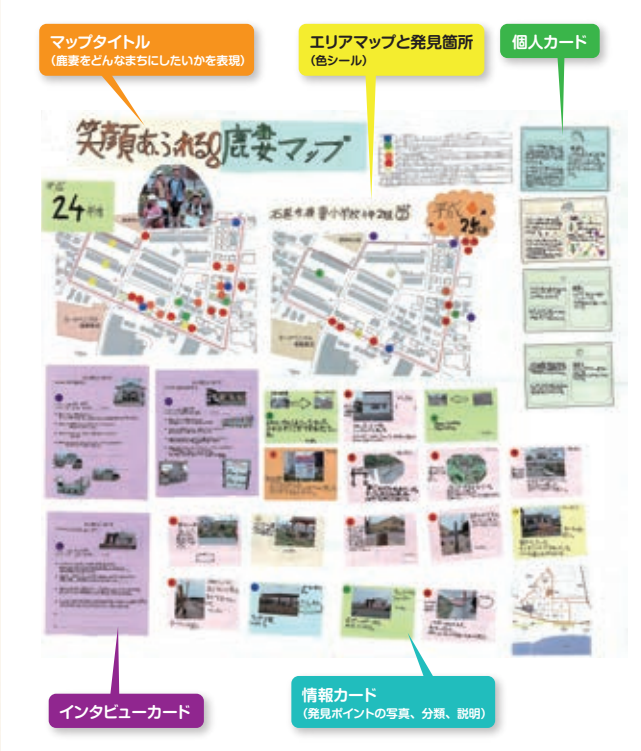
【独創性】
「復興マップづくり」が震災後の 1 年半後から 5 年にわたり続けられたことにより，4 年生が集めた復興の記録が学校の財産となっている。28 年度は，児童の目から見える物理的な地域の復興の変化がすくなくなってきたため，復活してきた町内会の「お祭り」を通じて，地域での人々の結びづきが地域の防災意識の高まりにつながるとの視点で，課題解決型の学習を進めている。

【子どもたちの自主性】
地域のお店の復興の取組みをインタビューを通じて知ることで，自分たちが地域のお店を応援しようという意欲が高まり，地域への愛着が芽生えていることが確認されている。

【活動を一過性にしないための工夫（継続性）】
4 年生の年間指導計画の総合的な学習の時間に，年間を通したメインとなる大テーマで，課題解決型の単元として位置づけ，十分な時数を確保している。そのため，本校の卒業生は，4 年時に必ず「復興マップづくり」に関わることになり，その後の地域学習へとつながる基本的な視点を持てることになる。

鹿妻小復興マップ

H25 鹿妻小復興マップ



H26 鹿妻小復興マップ

H27 鹿妻小復興マップ

H28 鹿妻小復興マップ

石巻市立湊小学校（平成 26 年度実践校）

第 4 学年　総合的な学習の時間（約 12 時間）

ね　ら　い　震災の被害を受けた湊地区の現状を知り，10 年後の災害に強い町づくりについて考え，まとめる活動を通して，復興の担い手としての意識を高める。

テ　ー　マ　「10 年後のまち湊（防災）」

指導の流れ

時数	指導内容	備考
1	**オリエンテーション** ●在校時や在宅時などに災害が発生した場合，どのような避難行動をとるのか話し合わせる。 ●石巻市の津波警報時のルールを学ばせる。 ●湊地区の避難場所や避難所などについて，地図で確認させる。 ●湊地区や避難場所（館山・牧山）の様子を撮影したビデオ映像を見せ，湊地区の現状を把握させる。	●児童用防災マニュアル（携帯版） ●石巻市津波避難計画 ●湊地区震災対応防災ファイル ●湊地区の様子や避難場所を撮影したビデオ
1	**町歩きの計画** ●グループ作りをする。（4 人× 10 グループ） ●地区の被災や復興の状況，避難経路の危険物，避難場所の現状などの視点を与え，計画を立てさせる。 ●町歩きで集めた情報や 10 年後の災害に強い町づくりの提案を防災マップにまとめていくことを伝え，発表会までの見通しをもたせる。	●ワークシート 1
2	**町歩き** ●グループごとに避難場所まで歩き，避難場所（高台）から見える町の様子を撮影させたり，町歩きをして気付いたことをワークシートに記入させたりする。 引率教諭 館山…4 年 1 組担任，学習支援ボランティア（4 年保護者） 牧山…4 年 2 組担任，主幹教諭	●ワークシート 2 ●避難場所までの地図（A4 版） ●デジタルカメラ ●生活科バック ※保護者や地域の方々に協力を依頼する。
4	**防災マップづくり** ●町歩きで気付いたことを防災マップへ書き込んだり，絵を描いたりして，まとめさせる。 ●今までまとめた内容をもとに，10 年後，災害に強い町にするにはどうしたらよいか，児童の思いや願いを考え，防災マップにまとめさせる。	●防災マップ（A0 版の 2 倍）

2	**発表のリハーサル** ●発表原稿や発表の役割分担を考え，発表会に向けてリハーサルをさせる。 ●グループごとに発表を聞き，改善点を出し合い，必要に応じて資料を修正させる。	
2	**発表会** ●学年で発表会（ポスターセッション）を開き，発表内容や資料の良さを認め合わせる。 ※全校児童には，昼休み等を利用して防災マップを紹介させる。 ●まとめたことを保護者や地域の方々に発表し，児童の思いや願いを伝えさせる。	●防災マップ（発表資料） ●ワークシート３ ●防災マップ（発表資料）

成　果

●地域を実際に歩き，湊地区の被災や復興の状況，避難場所の現状などを確認することができた。また，自分なりに課題をもち，考えたことをグループで情報交換しながら，防災マップにまとめることができた。

●２学期末の学習参観日には，発表会を通して，保護者や防災マップ作りに協力をいただいた東北大と山形大の先生方に，防災マップにまとめた内容を伝えることができた。また，この取組を３年生にも発表し，来年度につなげることができた。

●本取組は，各学校での実践的な指導計画作成に大きく寄与できると思う。

課　題

●より具体的な防災マップ作りのためには，５時間程度の「町歩きの学習」を組み入れることが望ましい。

●児童が作成した防災マップを保護者や本校児童に留まらず，地域の方々や近隣の学校などにも伝える機会を設けていきたい。

●12時間で実施するためには，地域の地図やワークシート，避難場所のビデオ撮影など，教師側の事前の準備を計画的に行う必要がある。

H27 湊小４年生「みなと安心・安全マップ」

石巻市立渡波小学校（平成 26 年度実践校）

第 3 学年　総合的な学習の時間（約 10 時間）

単元の目標

●意欲的にインタビュー活動をしたり，まとめたりする活動を通して，渡波地区の震災の前後の様子について興味・関心をもつことができるようにする。（関心・意欲・態度）

●将来の渡波地区がどのような町になるとよいかなどについて，自分の考えをもつことができるようにする。（思考）

●インタビュー活動（町歩き）の様子を記録したり，感想をまとめたりできるようにする。また，自分の課題について調べたことをまとめ，発表できるようにする。（表現・処理）

テ　ー　マ　「渡波をもっと好きになろう」

指導の流れ

	活動内容	支援及び留意点	主な評価規準
	渡波をもっと好きになろう（70 時間）		
4月	❶総合学習について知る。（2 時間）	●総合学習では，どのようなことを行うのかを理解させ，学習への意欲を高められるようにする。	●総合的な学習に関心をもち，意欲的に学習しようとしている。
5月	❷「今の渡波を知ろう」のテーマのもと各班の学習課題を決める。（4 時間） ▶町の様子について ▶神社やお寺について ▶行事や祭について ▶渡波にある会社について ▶今と昔の人口について	●児童の意見を取り上げながらできる限り課題別のグループ編制になるようにする。 ▶渡波公民館 ▶大宮神社，宮殿寺 ▶渡波公民館，宮殿寺 ▶内海商店 ▶渡波公民館 ※校内の郷土資料室も活用する。	●４年生の発表を聞き，取組みのだいたいを理解できる。
	❸町歩きをする時の計画を立てる。（4時間）	●どこへ訪問するか，何を聞くか，聞いたことをどのようにまとめるか等を話し合いで決めさせる。	●学習のテーマを考えることができる。
	❹町歩きをする。（3時間）	●各班にデジタルカメラを持参させる。引率者を事前に決め，メンバー，コース等の打合せをする。学年役員さん方へ引率の協力を依頼する。	●学習課題に沿った質問をしたり，気付いたことなどをメモしたりすることができる。

6月	❺調べたことをまとめよう。（10 時間）	●各班で調査内容を模造紙に壁新聞形式でまとめさせる。	●町歩きを通じての気付きや発見を自分なりにまとめようとしている。
	❻友達に伝えよう（３時間）	●学年内で発表会をする。複線型の学習を進めてきているため，各班の学習の様子を理解し合えるようにする。	●聞き手に分りやすく発表している。
7月	❼１学期の振り返りをする（１時間）	●ワークシート等	●自分のがんばりをワークシートに書いている。
	❽「震災前の渡波はどんな町なんだろう」の２学期のテーマについて考える。（３時間）	●２学期の方向性を示す。夏休みの課題の一つとして，「家族に震災前の様子」について，調べるようにする。	●２学期の学習について自分の考えをもつことができる。
8月	❾夏休みに調べたことをまとめる。（３時間）	●夏休みの取組をまとめさせる。	●自分なりの方法でまとめている。
	❿夏休みに調べたことを発表する。（３時間）	●各自の１学期の取組に深まりを称賛する。	●聞き手に分りやすく発表している。
9月	⓫「今の渡波とくらべよう」（３時間）	●震災の前後で変わったものやこと，また変わらないこと，残していきたいものや事柄に着眼させる。再度，校外学習を実施し，インタビュー活動等での発見をマップに記入する学習が２学期の大きな取組であることを知らせる。	●２学期の学習に見通しをもつことができる。
	⓬学習課題を決める。１学期の課題別グループで，震災前の様子について，どんなことを調べるか話し合う。（５時間）	●震災前の様子について，震災を経て，将来の渡波のために私たちに期待すること等をインタビューする。	●友達と話合いながら学習課題を決めることができる。
10月	⓭町歩きをする。（４時間）	●町歩き，インタビュー活動をしながら，将来の渡波のために残したい人，もの，ことなどを調べる。また，なぜそのように思ったのかを考えながら実施できるようにする。	●学習課題に沿った質問をしたり，気付いたことなどをメモしたりすることができる。
	⓮調べたことをまとめよう。（10 時間）	●各班で模造紙にまとめる。マップに，色別のシール，写真，吹き出し等を記入する。	●町歩きを通じての気付きや発見を自分なりにまとめようとしている。

11月			
12月	⑮招待状を書こう。（1時間）	●お世話になった方々や親にお礼の手紙（招待状）を書かせる。これまでの学習を通じて分かったことや感想等にもふれながら書くようにする。 ※ 招待状はできるだけ児童が直接手渡せるようにする。	●招待状を書くことができる。
	⑯「地いきの人に感しゃをしよう」（4時間）	●インタビューに答えていただいた方に対して感謝の気持ちを込めて，これまでの学習の成果を発表させる。	●自分の感想を交えながら，学習の成果を発表することができる。
1月	⑰カルタ作りをする（5時間）	●一連の学習に関する内容で，一人一枚以上のカルタを作り，カルタ遊びをする。	●意欲をもってカルタ作りに取組むことができる。
2月			
3月	⑱1年間の学習を振り返り，まとめをする。（2時間）	●ワークシートや作文等にまとめさせる。	●1年間の活動を振り返った文章を書いたり絵に表したりすることができる。

成　果
●地域の人や歴史を知る機会ができた。
●母校愛，地域愛，復興への思いが強くなった。

課　題
●年間指導計画への位置づけを考える必要がある。
●児童の制作物やノート等の活用をどのように図っていくか検討する必要がある。

H28 渡波小復興マップ

石巻市立住吉小学校（平成 27 年度実践校）

第 4 学年　総合的な学習の時間（約 20 時間）

ね　ら　い

❶地域を知ることが児童の防災意識の高揚につながると考え，普段見慣れている地域にも気づかないところがあることを体験的に理解させることを通して，地域を見直そうとする意識を高める。

❷指導する場面と自力解決をする場面を意図的に設定し，児童の防災に関する主体的な判断力を高める。

❸地域人材を活用し，保護者にも参加していただくことで，地域の防災意識を高める。

テ　ー　マ　生きていく私たち　～地域を知る　地域とつながる～

指導の流れ

段階	主な学習活動	時数	備考
関心をもつ 目的の共有	活動全体の見通しをもつ	1	
	町歩きの準備をする	5	NPO の方の助言
	町歩きをする	4	保護者の参加を呼びかけ
自力解決 まとめる 広げる	アンケート調査の準備・実施	2	
	マップの作り方を理解する	2	NPO の方の助言
	マップにまとめる	5	公益社団法人の協力
	まとめたことを紹介し合う	1	

成　果

❶地域を再発見する活動になった。児童が地域を知ることの楽しさを味わうことができた。

❷町歩きやアンケート調査などを通して，地域ぐるみで防災を考える機会になった。

❸ NPO の方々のおかげで，専門的な観点をもって町歩きをすることができた。

課　題

❶今回依頼した NPO は東北 6 県にまたがって活動している方々で，学校に集まるための費用が多額になる。（すべてボランティア）

❷多くの地域の方々の参加・協力をいただいた。今後も継続して地域防災を考えていくための手立てを考えたい。

住吉小 4 年生の取組み（例）

石巻市立中里小学校（平成 27 年度実践校）

第 5 学年　総合的な学習の時間（約 22 時間）

当校では，昨年度から総合的な学習の時間に，「情報を発信しよう」という大単元の中で「東日本大震災と向き合う学習に取組んできた。今年度は，「防災マップづくり」をこの単元の中の１つの単元として位置付け取組んだ。

ね　ら　い

●防災マップを作成する一連の活動を通して，災害が起きたときに自分の知識を役立てようとする態度を養う。

●マップをつくるための地域の「フィールドワーク」活動を通して，自分たちが住んでいる地域を良く知り，地域に対する愛情を育てる。

●可能な範囲で東日本大震災を振り返り，向き合い，その教訓を生かそうとする心情を育てる。

テ　ー　マ　「中里地区の防災に役立つマップをつくろう」

先の東日本大震災で当校の学区は，床上浸水等の被害は多かったものの，大きな被害は比較的少ない地域である。しかし，児童の中には大きな被害を受けた地域から転入してきた児童もおり，その中には震災を大きなトラウマとして抱えている児童がいることも分かっている。そこで，あまり先の震災に結び付けるようなことはせず，上記のような「地域の防災に役立つマップ」を作るというテーマを設定することにした。

指導の流れ　中単元「中里の防災に役立つマップをつくろう」

小単元名	時数	活動内容（時間）
防災士，阿部清人さんの話を聞こう	4	●防災士阿部清人氏に聞きたいことをまとめる。(1) ●防災士阿部清人氏の話を聞く。(2) ●阿部清人氏の話を振り返り，まとめる。(1)
防災マップをつくる計画を立てよう	3	●防災マップをつくる活動の流れを知る。(1) < フィールドワークの様子 > ●阿部清人氏の話を生かして，防災マップに記載するものについて話し合う。(1) ●グルーピングをし，役割や「フィールドワーク」の具体的な計画を立てる。(1)
防災マップをつくろう	5	●１回目の「フィールドワーク」を行い，地域の防災に役立つ場を集める。(2) ●集めた情報を整理する。(1) ●防災士阿部清人氏を再び招き，指導の下で集めた情報を防災マップに表す。(2)

防災マップを改善しよう	5	●阿部氏のアドバイスをもとに，防災マップを改善するためにどんなことが必要かを話し合う。（1） ●２回目の「フィールドワーク」の計画を立てる。（1） ●２回目の「フィールドワーク」を行い，よりよい防災マップにするための情報を集める。（2） ●２回目の「フィールドワーク」で集めた情報を整理する。（1）
防災マップを完成させよう	2	●阿部氏のアドバイスを想起しながら，２回目の「フィールドワーク」で集めた情報を，防災マップに表す。（2）
活動を振り返ろう	3	●つくったマップをお互いに見合い，感想を伝え合う。（2） ●活動を振り返り，自己評価する。（1）

成　果

❶防災士阿部氏の話を聞き，「災害の際にどんなものが役立つか」，「どんな情報が必要か」を具体的に学んだことによって，地域の中で災害にあったときに調べた情報を生かそうとする心情を育てることができた。

❷２回の「フィールドワーク」を通して，これまでと違った視点で地域を見ることによって，これまで知らなかった地域の情報を集めることができたとともに，地域住民の優しさに触れ地域への理解を深めることができた。

課　題

❶児童の手による防災マップづくりは，当校では初めての取組である。これまでの活動の中に「防災マップづくり」を組み入れることは正直大変であったが，担当としては今年度限りにするのは残念に感じる。できたマップには改善の余地がたくさんある。今年度学んだことを次年度以降にも引継ぎ，地域にとって本当に役立つ防災マップづくりを次年度以降も継続していく方法を考えていきたい。

❷震災へのトラウマを抱えている児童がいる。指導の際は，家庭と連絡を取り合い児童に過度の負担にならないように配慮している。しかし，あと数年で震災の記憶がある児童が学校からいなくなることを考えると，児童の声を残しておくことも大変重要なことと考える。児童の負担と震災についての学習のバランスをどのようにとっていくのかが今後の大きな課題である。

中里小５年生の取組み（例）

石巻市立湊中学校（平成 26 年度実践校）

ね　ら　い　●震災後，学区を離れて生活する生徒が多い中，それぞれの居住地に応じた防災マップを作成することで，自分の居住地を知り，各自の防災意識を高める。

●生徒のマップ作りを通して，家族も居住地を知り防災意識を高める契機とする。

実践の概要

❶指導計画

項目	時数	内容
事前指導	9 月 17 日 帰りの会 10 分	●避難訓練の流れ ●マップ作りの流れ
避難訓練	9 月 18 日　第 5 校時 学校行事　1 時間	●地震津波対応避難訓練 ●第 3 次避難　高台（牧山）避難
マップ作り	9 月 18 日　第 6 校時 総合的な学習の時間　1 時間	●居住地別グループに分かれ防災マップ作成
事後指導	9 月 19 日他 学級活動　1 時間	●学年ごとに防災マップの確認 ●マップ作りを通して学んだことの共有

❷マップ作りの流れ

●事前準備

▶班編成……安全教育担当
　湊・鹿妻地区……1の1教室　担当：
　南境・開成地区……1の2教室　担当：
　中央・中里地区……2の1教室　担当：
　大街道・蛇田地区……2の2教室　担当：
　赤井・東松島方面……3の1教室　担当：
　その他（鹿又，中津山）……3の2教室　担当：
▶地図の準備……安全教育担当
▶付箋紙，カラーラベル準備……防災教育担当

●防災マップ作成

❶居住地区での被災を想定し，地図にカラーシールを貼る。
　・自治体指定避難場所・避難所……青
　・避難場所になりそうな施設・建物……緑
　・避難時に危険，要注意と思われる個所……赤
　・その他……黄
❷カラーシールの箇所に施設や理由などを付箋紙に書き貼る。
❸全員で確認する。
❹代表は地図を 4 階防災教室廊下に持参し所定の位置に掲示する。

●事後指導

学級・学年単位で次の事項について指導する。

❶全員ですべてのマップを確認する。

＊自分の居住地のマップを説明することで，理解を深める。

❷登下校時はバス運転手や添乗員の指示に従う。

❸徒歩通学者は指定避難場所・避難所か学校の近い方に向かう。

❹居住地の避難について家庭で確認し，避難袋の常備などを話し合う。

成　果

●マップ作りに取組むことで，自分の居住地について関心を持ち，理解が深まった。

●居住地ごとのグループ分けにより，仮設団地等でお互いを知ることができた。

●緊急時に率先避難の姿勢が浸透してきた。

●４階廊下に常時掲示することで，日常的に目にし防災意識を高めることができた。

●全地区のマップを掲示したことにより，自分の居住地だけでなく他地域の避難場所を知ることができた。

●発災時の避難について家庭で話し合う機会となった。

課　題

●今年度できなかった個人マップの作成に取組み，家庭での活用を図りたい。

●フィールドワークを通して，各箇所の情報写真も加えたい。

●マップを地域の家庭にも配布し，地域の防災意識の高揚を図りたい。

●学校行事の関係から，４月の実施が困難である。１年生の高台避難訓練だけでも４月中に行いたい。

湊中学校の取組み（例）

石巻市立住吉中学校（平成 27 年度実践校）

第 1 学年　総合的な学習の時間（約 10 時間）

ね　ら　い　東日本大震災の被災者である私たちが，防災・復興マップづくりを通して自分たちの住む地域の災害による危険性について考え，被害を軽減しようとする意欲を高めるとともに，自分たちの住む地域の人に広く伝え，災害時には一人でも多くの人の命を守れるようにする。

テ　ー　マ　「自分たちの地域の今を知り，防災・復興マップづくりを通して安全・安心な生活を送れるよう学習しよう」

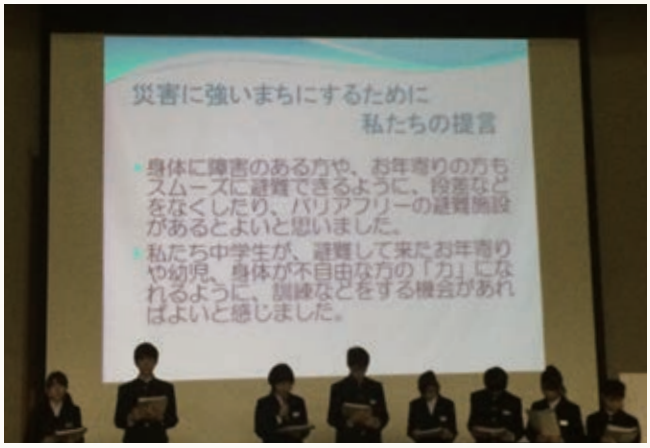
指 導 時 数　10 時間　（夏季休業中フィールドワーク 3 日間）

指導の流れ　ガイダンス（2 時間）→ 事前指導（2 時間）→ フィールドワーク（夏季休業中 3 日間）→ マップ作成（6 時間）

成　　果
- ●多くの方々の協力もあり，夏休みを利用してフィールドワークを行うなど，限られた時数の中で，生徒は意欲的に防災・復興マップづくりが行えた。
- ●住吉中学校では，主に住吉小学校，開北小学校の 2 校から中学校に進学してくる。お互いの学区については，知らないことも多く，中学校の学区や近隣の地区の様子を知り，改めて危険個所などについて確認することができた。
- ●お年寄りや幼児のいる施設を訪問して，中学生として手助けをしなければという気持ちを持つことができた。　自助 → 共助

課　　題
- ●マップづくりに意識を高めて臨ませることで，防災に関する学習の効果が一層高まるのではないか。夏季休業を活用したが時間の確保が課題として挙げられる。
- ●マップづくりには意欲的に取組めたが，この活動を通して学んだことを今後どのように生かしていくのかをふまえて 2・3 学年で継続して防災教育を進めていく必要がある。

H28 住吉中 1 年生復興・防災マップ



石巻市立大川小学校（教員によるマップづくり）

平成 27 年度, 大川小学校では, 夏休みの職員研修として「学区を知る会」による危険箇所点検と防災マップづくりが行われました。

石巻市立鹿又小学校（平成 28 年度実践校）

第 6 学年　総合的な学習の時間（約 15 時間）

ね　ら　い　●まち歩きとマップづくりを通して，ふるさと鹿又のよさと魅力を再発見するとともに，防災について考え，10 年後につなげたい思いをもつ。

テ　ー　マ　10 年後につなげようこの思い　～未来へつながるマップづくりを通して

指導の流れ

段階	主な学習内容	時数
つかむ	●事前アンケート・保護者インタビュー 	事前
	1. オリエンテーション	
	❶鹿又のよさと魅力について考える。	1
	❷地域の人（行政委員，自主防災組織リーダー）にインタビューする。 ・鹿又の「良さと魅力」「危険と不安」「備え」「つなげたい思い」	1
	❸マップづくり 1 をする。 ○ねらい ・情報の共有 ・児童のふるさとに対する思いと防災に対する意識の実態把握 ○工夫点 ・鹿又も最大被災地石巻 ・北上川が過去に引き起こした洪水が，「ふるさと鹿又」の恵みをもたらしている。 ⇩ 「各種地図の活用」「地図の提示の仕方」 	1
	❹まち歩きの計画を立てる。	1
広げる・深める	2. まち歩き ❶グループごとに，地区（4 地区）のまち歩きを行う。 ○実施できなかった 6 地区については，休日に家庭の可能な限りの協力を得て教育課程外での実施 	3
	3. マップづくり 2 ❶情報を整理し，防災について考える。 ○場面をイメージして防災について考える。 ・災害 = 地震，津波，大雨，洪水，土砂災害，その他 ・時間 = 災害前，発生時，災害後	2

	❷ 10 年後につなげたい思いを考える。 〇教師からのメッセージ性をもった語りかけ，問いかけ 〇工夫点 ・伝える相手と方法 =10 年後の自分自身，手紙 ・書き出しの統一 文末表現 =「～です。」「～が大切です。」「～してください。」「～を忘れないでください。」※質問形式にはしない。 	1
	❸マップにまとめるとともに，タイトルを考える。	2
	❹北上川を見学する。	1
つなげる	4. 発表会 ❶練習をする。 ❷保護者と地域の方に学びと思いを伝える。 〇発表方法 ・地区ごとに発表 ・ワークショップ形式 	1 1
	●事後アンケート	事後

【主な活用教材】
石巻現地形土地利用地図（平 22）／旧石巻旧土地利用地図（大 4）／治水地形分類図／鹿又小学区全体地図／地区エリア地図

【発見ポイント】
・緑 = 自然，歴史，施設，便利等
・赤 = 災害別：地震，津波，大雨，洪水等
・青 = 避難所・場所，備蓄倉庫，防災無線，看板等
・黄 = 宅地，防災施設，防災用具等

成　果

❶新旧の土地利用図を活用したことによって，自然（北上川）がもたらす恵みと危険を理解するとともに，自然と共存していく必要性を実感することができた。

❷インタビューとまち歩きを通して，防災に対する意識を高めることができた。

❸過去と現在，人と人，そして命のつながりを考えることができた。

❹ 10 年後の自分への手紙を書くことを通して，防災や復興に対する思いをもつことができた。

鹿又小学校　鹿又マップ

石巻市立和渕小学校（平成 28 年度実践校）

第 6 学年　総合的な学習の時間（約 25 時間）

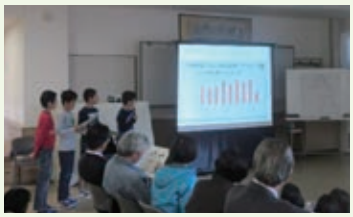
ね　ら　い　❶「まち歩き」と「マップづくり」の活動を通して，地域の一員として地域社会に対する愛情をもち，自分の地域の未来を考える態度を育てる。

❷地域学習を通して，児童自らが災害に強いまちづくりに貢献しようとする意欲を高める。

テ　ー　マ　「まち歩き」と「マップづくり」から和渕のよさを考えよう

指導の流れ

段階	主な学習内容	備考	時数
1 次	オリエンテーション	●「防災マップとは何か」「ハザードマップとの違い」について知る。	1
2 次	「まち歩き」の 計画と実施	●和渕地区で危険が想定される状況を考え，設定を絞る。― 今後懸念される「地震」「洪水」 ●避難所や防災倉庫といった安心のための備えにも目を向けながら「まち歩き」を行う。 ＊保護者による協力	4
3 次	「防災マップ」づくり ～気付き～	●自分たちで収集した情報を同じ形式で整理し，地図上に表す。 【まとめるポイント】 青…安心・安全のための施設や備え 赤…物が落ちる・崩れるなどの危険や，道路をふさいだりするところはないか 緑…歴史があり，これからも大事にしたいところ	6
4 次	防災上の課題についての調べ学習 ～新たな地域学習へ～ 	●「マップづくり」の振り返りや気付きから，更なる学習課題を設定し，調べ学習に取組む。 「災害弱者」の安全を守る取組みを調べたい ⇩ ❶保育所における防災上の取組 ❷高齢者施設における防災上の取組 自主防災会の方のお話を聞く活動 ⇩ ❸避難所として和渕神社の見直しと問題点 アンケート ⇩ 	10

4 次		⇩ ❹和渕小全家庭における防災意識の調査 （例） ・いざという時の備えはありますか ・どこに逃げるか決めているか ・災害伝言ダイヤルを知っているか	10
5 次	「防災マップ」と調べ学習の発表と振り返り～「わたしたちも地域の一員」～	●「防災マップ」発表会の実施（石巻市総合防災訓練の日） ＊保護者，地域の方の参加 	4

成　果

●地域を防災の視点で見つめ直すという課題で「まち歩き」を行ったことにより，地域の特性やよさに改めて気付くことができた。

●「マップづくり」によって新たに生じた課題意識を生かして，保育所・老人福祉施設・自主防災組織の方に話を聞きながら，防災上の現状や問題点を関連付けて調べることができた。

●学習を通して，自分たち自身が地域の一員であることに気付き，災害時には自分のできることを考えようとする態度を育てることができた。

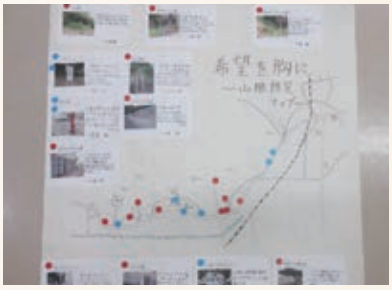
課　題

●現状について分かったことをマップに表したが，過去の土地利用や過去の災害の様子などを地図に表す活動は実践できなかった。

●自主防災組織の活動については，学区内の一部の地域についてのみ調べた。より多くの地域の取組について学び，整理し，地域全体の防災意識の向上につなげる必要がある。

●今後も地域学習を継続して，地域防災を考えていくことが必要である。

資料　防災復興マップ
「希望を胸に～和渕各地区防災マップ～」



石巻市立河南東中学校（平成 28 年度実践校）

総合的な学習の時間（約 6 時間）

ね　ら　い　❶まち歩きを通じて，地域を知り，地域への愛着を深め，地域の未来を考える姿勢を養う。
❷学校及び通学路周辺の留意箇所を把握し，状況に応じた判断や行動ができる児童生徒の育成。

テ　ー　マ　自分たちが感じている通学路周辺についての留意点を各小学校区の防災マップを活用し，児童と保護者に伝えよう。

指導の流れ

主な学習内容	備考	時数
●「復興防災マップ」の取組ガイダンス ●小学校周辺の町歩き調査（8/5）	総合学習 夏季休業中	1
●全体への主旨説明（11/17）	総合学習	2
●６年生の児童に伝える内容をまとめる。 ●既存の学校周辺の地図に留意点を記入する。	家庭課題	3
●入学説明会に向けた内容確認と練習会（11/25）	学級活動	4
●石巻災害ポータルサイトで小学校区，中学校区の様子を把握する。 ●登下校を振り返り，留意箇所を考察し今後の危機管理意識向上につなげる。	社会科	5
●入学説明会で児童・保護者に通学路の留意点について伝える。（11/27）	学校行事	6

成　果

●自分たちが通る通学路周辺の留意点を知ることで，安全への意識が高まった。

●来年度入学する児童に分かりやすく伝えるために，細かい点に目を向けたり，工夫したりする姿勢が見られた。

●入学説明会での伝講により，児童・保護者との連携が図れた。

●学校ホームページに石巻市の防災ハザードマップをリンクさせ，保護者もスマホ等から確認できるようにした。説明会当日，実際にアクセスし，全体で確認を行った。

課　題

●実際に町を歩いて調査したり，まとめたりする時間の確保が難しかった。

●年間計画に位置付け，１年生の活動として定着させるための指導を確立させる。

石巻市立中津山第一小学校（平成 29 年度実践校）

第 5 学年　総合的な学習の時間（20 時間）

ね　ら　い　まち歩きとマップ作りを通して，ふるさとに対する愛着を再構築するとともに，防災について考えながら自分たちができることを確認し，地域社会に貢献しようとする意欲を高める。

テ　ー　マ　学区の災害の歴史を学び，未来へつながるマップを作ろう

指導の流れ

段階	主な学習活動	備考	時数
1次 つかむ	●オリエンテーション ●学区の歴史について学ぶ ●まち歩き①をして，学区の地形の特徴について知る	●「どのようなマップを作るか。」「学区の魅力は何か。」について話し合う。 ●「私たちの桃生町」を活用し，学区の歴史について調べる。 ●昔の水害と合わせて，地形の特徴をつかませる。	1 1 1
2次 広げる	●学区の歴史や災害について学ぶ ●まち歩き②の計画を立てる ●まち歩き② ●防災マップ指導訪問	●歴史研究家の千葉昌子先生をゲストティーチャーに招き，学区の歴史について学ぶ。 ●4地区に分かれ，それぞれの地区で重点的に調べることを話し合う。 ●まち歩きを実施し，危険個所や避難場所の他，魅力や良さについても調べる。 ●マップを作成するにあたって，事前に質問事項を考えさせ，マップ作成上のヒントをいただけるようにする。	2 2 2 1
3次 深める	●マップ作り	●自分たちで収集した情報を整理し，地図上に表す。	7
4次 つなげる	●発表会をする ●学習の振り返りを行う	●保護者と4年生を対象にマップの発表会をする。 ●マップ作りを通して，身に付いた力を確認し，今後の取組への意欲を高める。	2 1

成　果

●まち歩きを行う際，視点をしっかりと定め取組ませたので，学区の歴史や地形についても注意深く観察することができた。

●地区ごとに様々な防災設備や取組があることが分かり，実感を伴って地域社会を見直す機会になった。

●日頃，避難訓練等は行っているものの，改めて防災に対する考えが深まり，自分たちができることを考えられるようになった。

課　題

●地域の一員としてできることを具現化するため，今後も地域の方々との連携を深めていきたい。

●マップ作りへの取り掛かりが遅かったため，時数の確保や実施時期の設定が大変だった。

その他

●地図は市販のものを拡大して，貼り合わせて使用したが，模造紙大のコピーが可能なコピー機は使用できないものだろうか。

●まち歩きでは，各班に１台のデジカメを持たせて取組んだ。その他に引率者にもデジカメを持っていただき，子供たちの様子などを撮影した。

石巻市立桃生小学校（平成 29 年度実践校）

第 4 学年　総合的な学習の時間（30 時間）

ね　ら　い
❶地域の自然や，歴史について主体的に情報収集して調べる。
❷マップ作りを通して地域の安全，安心への関心を高め自分の地域の未来を考える態度を育てる。
❸地域学習を通して，児童自らが災害に強いまちづくりに貢献しようとする意欲を高める。

テ　ー　マ　「羽ばたけ未来へ　桃生小マップ」

指導の流れ

過程	時間	学習活動	教師の支援	備考＊講師
導入	4	❶北上川について知っていることを話し合う。(1) ❷北上川について，講師の先生の話を聞く。(1) ❸北上川の源流から桃生町までの川の特徴について知る。(2)	●「わたしたちの桃生町」を読んで感じたこと，考えたことを話し合う。 ●川の恵み，過去の災害について調べてまとめておく。 ●児童の気付きを自分の言葉でメモさせる。	●講師：白石定利さん，舟嶋茂昭さん（北上川漁業協同組合）
展開	20	❶水害，地震の被害がどのくらいあったか取材し発表する。(1) ❷災害時の避難方法と避難場所について取材し発表する。(1) ❸町歩きの計画を立てる。(2) ❹町歩きをする。(2) ❺防災マップづくりをする。(8) ❻防災倉庫調べをする。(2) ❼災害時料理体験をする。(2) ❽調べたことや体験したことをまとめ，更なる学習課題を設定し，調べ学習に取組む。(2)	●児童自ら家庭での取材を行う。 ●まとめファイルの準備をする。 ●児童自ら家庭での取材を行う。 ●保護者の協力をお願いする。 ●ワークシートの作成をする。 ●各地域の地図を準備する。 ●保護者の協力をお願いする。 ●自分たちで未来の桃生町を考えられるように，今までの資料や活動の成果をまとめておく。	●講師：佐々木啓悦校長先生 ●別途作成手順指示

まとめ	6	❶調べたことや体験したことをまとめる。(2) ❷北上川と防災についてまとめたことを発表する（2） ❸振り返りを行う。(2) 感想を共有する。	●発表できるようにまとめさせる。 ●模擬発表会を行う。 ●授業参観にて発表を行う。 ●活動内容をまとめた映像を作成する。	

成　果

●インタビューや町歩きをすることで，普段何気なく通っている場所の，安全への意識を高めることができた。

●新旧北上川の恵みや危険性を理解し，地域の特性や，地域に対する愛着を再認識することができた。

●災害時には，自分たちができることを考えようとする姿勢と，協力してできることの達成感を味わうことができた。

課　題

●学区エリアが広いため，自転車で周る計画を立てて実施した。今回は町歩きの際の安全管理について保護者の協力を得ることができたが，児童の安全に対する関心や交通ルールを守る意識をさらに高めていかなければならないと考える。

●学区内の他地域についても継続して学び，整理し，地域防災の意識向上につなげる必要がある。

〈資料〉

北上川について知る。

北上川の源流について知る。

町歩きの様子。

防災倉庫調べ。

「サバイバル飯」作り。

保護者へのマップ発表会。

石巻市立桃生中学校（平成 29 年度実践校）

第 1 学年　総合的な学習の時間（約 12 時間）

ね　ら　い　まち歩きとマップづくりを通して，ふるさとのよさと魅力を再発見するとともに，防災について考え，地域の未来を考える態度を育てる。

テ　ー　マ　「防災マップづくりを通して，自分たちの地域を知り防災に対する意識を高めよう。」

指 導 時 数　12 時間

指導の流れ

時数	主な学習活動	
1	オリエンテーション①	【過去の地震災害について学ぶ】 講話　「岩手・宮城内陸地震，栗原市花山での山林再生事業について」 講師　環境ボランティア団体もりの仲間，栗原市総務部危機対策課
2	オリエンテーション②	【自分たちの町について考える】 ●防災マップとは何か，自分の住んでいる地域について考える。
3	防災マップ　講演会	【桃生町について学ぶ（講演会）】 講話　「桃生町の昔と今，災害について」 講師　桃生町郷土史家　千葉昌子氏
4	防災マップ　情報交換会	【夏休みの課題の情報交換】 夏休みの課題として以下の２点について調べさせた。 ●「桃生町の水害について（家族，近所の人に聞く）」 ●「我が家の避難行動マニュアルを作ろう」
5～10	防災マップづくり①～⑥	【防災マップづくり】 出身小学校毎に分かれ 12 班編成で防災マップを制作する。 ●情報を整理し，防災マップに載せる資料について考える。 ●レイアウトなど考えながら，タイトルや記事を記入していく。
11	防災マップ　づくり⑦ 原稿づくり・リハーサル	【発表会準備】 ●発表会に向けて原稿をつくり，練習をする。
12	防災マップ　づくり⑧ 発表会とまとめ	【発表会・まとめ】 ●発表会を行い，保護者や仲間に学んだことを伝える。 ●他の班の発表を聞いて，学んだことや感じたことを振り返りまとめる。

成　果

●災害について，さまざまな人から話を聞き，自分の住んでいる地域に起こりうる災害について考えることができた。桃生町の地形は低く水に囲まれていることで，水害が多いことを知ると共に，田畑に囲まれているため，水は不可欠であることに改めて気づき，地域を再発見する活動となった。

●自分で調べた情報を確認するために，地域を歩き，地元の人に話を聞くなど，知識を高めるとともに人との関わりを深めることができた。

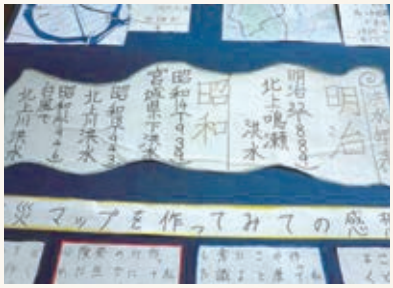
●水害をはじめとする災害が起こりにくい（起きた時にすぐ対応できる）街づくりに貢献していきたいと防災意識を高めることができた。

課　題

●実際に地域を歩いて調査させたり，まとめさせたりする時間の確保が難しかった。

●生徒が制作した防災マップを保護者や地域の方々にも伝える機会が少なかった。

●生徒の実態を考え，見通しを持った計画を立て，進めていく必要があった。



石巻市立北村小学校（平成 30 年度実践校）

第 3 ～ 6 学年　総合的な学習の時間（11 時間扱い）

ね　ら　い

●これまで地域について学習してきた経験や人々とのつながりを生かして，震災時に地域で安全なところ・危険なところについて仲間と協力して調べ，防災マップを作る。

●防災マップの作成・検討を通して，日頃からの防災意識を高め，災害時に安全に行動する態度や能力を高める。

テ　ー　マ　「北村地区安全調査隊」

指導の流れ

第 1 次　地域について知る（1 時間）

防災マップを作るに当たって，地域における過去の災害について児童が知ることで，北村地区も決して安全ではないことに気付き，防災についてどうなっているか自発的に調べさせたいと考えた。そこで，元宮城県女川高等学校校長の佐々木慶一郎さん（写真）に北村地区における過去の災害について話していただいた。児童は，自分たちの身近なところでも，大きな災害が起きたことに驚いていた。

第 2 次　地区探検の計画（1 時間）

前時のゲストティーチャーの話を受け，児童は，「地区の防災についてどうなっているのか？」「自分たちの地区は安全なのか？」といった防災について興味・関心をもつことができた。そこで，児童が 5 つのたてわり班に分かれ，それぞれに割り当てられた地区について調査する計画を立てた。その際に調べてくるポイントを「避難所，避難施設」「安全のための施設・設備」「もしものときに，危険なところ」「過去の災害について」とした。

調査活動の安全確保のボランティアとして保護者に協力してもらった。また，地区の防災などについて話をしていただくため，地域防災連絡会を通して地域の方に依頼をした。

第 3 次　地区探検（3 時間）

5 つのたてわり班の出発の地点をそれぞれの地区の避難場所とし，まず，地区の方にそれぞれの防災などについてお話をしていただき，その後に地区探検を行った。地域を探索しながら，地域のことについて説明を受けることができた。

実際に歩いて地域を調べることで，様々な危険箇所や安全に対する取組がなされていることに気付くことができた（写真：地区の方々から説明を受ける生徒）。

第４次　防災マップ作り（４時間）

調べた施設等をグルーピングし３つに色分けした。緑は指定避難場所・拠点避難所，青を公園・広場・消火栓・防火水槽・防災無線といった指定されていないが安全な場所・建物・安全のための施設，赤を倒れてきそうな所，落ちてきそうな物，崩れてきそうな場所，浸水の恐れがある場所など注意する場所・物という観点でまとめた。

それぞれの観点は色別のシールで番号を書いて地図上に貼り付け，別の用紙に，写真とその場所・物についての説明を書いた。また，上記以外の過去の災害や地域の取組など，話を聞いて分かったこと等は，別の用紙にまとめた（写真：まとめ作業の様子）。

第５次　防災マップ発表会（１時間）

12 月 11 日に体育館を会場に，防災マップ発表会を地区探検の際にお世話になった方々を招待して行った。「地域の防災についての取組」「見学して分かったこと」「地域の方の話を聞いて分かったこと」「地域のよりよい防災のために自分たちにできること」について発表した。児童は，発表だけでなく，他の班の発表を聞いて質問したり，感想を話したりした（写真：発表会の様子）。

第６次　全体マップ作り（１時間）

それぞれの地域のマップを持ち寄り，１枚の学区マップとして作成。

成　果

●実際に地区を歩き地区探検を行ったことで，地区の特色について詳しく知ることができた。また，地区の方の協力もあり，地区の防災についての取組について，理解することができた。

●防災マップ発表会を通して，互いに調べた地区を見たり，聞いたりすることで，北村地区全体の防災の取組について理解を深めた。また，発表会では，地域の皆様からも，感想をいただくなど交流を深めることができた。

課　題

●今回の防災マップ作りだけで終わらずに，今後も継続して，郷土理解を深めていくための活動にしていくような計画を総合的な学習の時間に位置付けていきたい。次年度は，５年生で70時間を配当して活動する予定である。

石巻市立前谷地小学校（平成 30 年度実践校）

第 6 学年　総合的な学習の時間（47 時間）

ね　ら　い　前谷地地区や河南地区の歴史や地形について調べ，よさや課題について気付くことができる。

テ　ー　マ　前谷地・河南再発見～歴史・地形から見る災害

指導の流れ

❶防災について，児童が知っていることや興味のあることについての実態把握
（アンケート，聞き取り等）

❷オリエンテーション
（活動目的の明確化，学区の地図を確認，まち歩きの計画等）

❸まち歩き（２回実施）
・前谷地の地形や特徴がわかりやすい場所　・過去に洪水等の災害が発生した場所
・前谷地の歴史について知ることのできる場所（神社，お寺，齋藤氏庭園等）
・災害時に緊急避難所となる場所

↑齋藤氏庭園にて前谷地の歴史を学んだ。

↑川の側を歩き，高低差を確認した。

❹マップ作り
・まち歩きで収集した情報を，整理・選択していく。班毎に担当した場所をカードにまとめ，模造紙に貼っていく。

❺マップの発表（１月の学習参観日に発表）

成　果　マップ作りをするにあたり，新たに年間指導計画に加えるのではなく，６年生の総合「前谷地・河南再発見」で学習する内容に組み込むこととした。

まず，アンケートや聞き取りで得られた情報としては，主に前谷地の地形やその特徴についてである。田んぼがたくさんあることや平らな地形ということについて気づいている児童が多いようであった。防災という観点から，津波の影響はないが，川が近いことから洪水等の被害の可能性があると考えている児童もいた。

児童への聞き取りを開始し，オリエンテーションを行ってから，児童の興味･関心が高まってきた。災害に関する歴史や土地の特徴を調べ，担任に報告するようになってきた。児童によっては，家族に聞いたり，知り合いに聞いたりして情報を集めていった。幅広い世代からの情報によって，多くの発見があった。また，地名に関心をもった児童もいた。「西谷地」「下谷地」「沖」「黒沢」等様々な地区名があるが，「ここは水に関係があるのではないか」「洪水で被害が出たのではないか」という予想を立てていた。他にも，家に帰ってから実際に足を運び観察をすすめる児童もいた。前谷地地区の様々な場所の土を掘り，貝殻が出てきたことから，前谷地全体がもともと海であったことに気づく児童もいた。どの児童も進んで調査に取組む姿が見られた。

まち歩きをする時期には，興味・関心がとても高まっている状態であったので，どの児童もたくさんの情報を得ようと注意深く観察する様子が見られた。実際に歩くことで，土地の高低さを実感することができた。

↑切通し

↑船島山

切通しは，川の氾濫に備えて，溢れる前に水を流す場所である。実際に見学に行くことで，この場所が氾濫しやすいということや，低地で安全な場所につながっていることに気づくことができた。

船島山は，田んぼの中にある，小さな山である。児童はその地名から，「昔は前谷地が海の底で，この山だけが島として海上に出ていた」と予想していた。この船島山は，学校の付近にありながら，どの児童も行ったことがなかったのだが，児童から，行ってみたいという声が多数上がり，実際に見学を行った。

まち歩きを通して，前谷地の歴史をより深く学べただけでなく，もっと知りたいという感情を高めることができた。

課　題　初めての取組みであったので，見通しを立てることが難しかった。児童の意欲が高まっていたので，じっくりと取組めるように計画を立てていきたい。

石巻市立河南西中学校（平成 30 年度実践校）

第 1 ～ 3 学年　総合的な学習の時間，社会科，理科（計 30 時間）

ね　ら　い

●自分の住んでいる地域の地形的な特徴と過去の災害を知り，災害時にどんな被害が起きるかを予想できるようにする。

●マップづくりを通して，防災・減災の意識を高める。

●実際の災害時に，迅速かつ安全な避難行動につなげることができるようにする。

テ　ー　マ

「自分が住んでいる地域の防災マップをつくる」
～災害時に最寄りの避難所まで安全に避難できるようにする～

指 導 時 数

1 年生 14 時間	●教科　社会…２時間，理科…２時間（２月予定） ●総合的な学習の時間…６時間 （ふるさと大好き中学生育成事業４時間）（石巻市総合防災訓練２時間） ●学校行事…４時間（石巻市総合体育大会陸上競技時）
2 年生 8 時間	●教科　社会…２時間 ●総合的な学習の時間…２時間（石巻市総合防災訓練） ●学校行事…４時間（石巻市総合体育大会陸上競技時）
3 年生 8 時間	●教科　理科…２時間（１月） ●総合的な学習の時間…２時間（石巻市総合防災訓練） ●学校行事…４時間（石巻市総合体育大会陸上競技時）

指導の流れ

（1）地形図の読み取り

●国土地理院発行，１／25000 地形図のうち，河南西中学校学区分の読み取り（社会）
●標高，地形（自然堤防等），自宅の位置のプロット

（2）実態調査①　石巻市総合体育大会陸上競技時

●生徒全員に予め地形図を渡しておく
生徒は自宅から地区ごとに決められた集合場所まで移動しながら以下の観点で危険な場所を地形図に記録する。
（ア）　災害安全（崖崩れ・洪水・地割れ等）
（イ）　交通安全（見通しの悪い交差点・信号のない交差点等）
（ウ）　生活安全（西中連絡の家の場所・交番・消防等）
●集合場所から学校まで登校しながら通学路の危険箇所を記録する。

●登校後，３つの地区ごとに分かれ（前谷地･北村･広渕）調べてきたことを，拡大した地形図（マップ）にプロットする。観点ごとに６色のシールで表示。

（３）実態調査②　ふるさと大好き中学生育成事業（１年生）

●（２）でデータのとれなかった地区の調査。
●（２）で調査した箇所の写真撮影。
●地区ごとに上記の活動を行いながら登校。
●３つの地区ごとに分かれ（前谷地・北村・広渕）調べてきたことを，マップに表示する。

（４）マップ作成　石巻市総合防災訓練ステージⅠ終了後（全学年）

●石巻市総合防災訓練ステージⅠ終了後，前谷地地区・北村地区の生徒は登校しマップに写真をレイアウトし，コメントを記入する。
●広渕地区はステージⅡに参加したため，後日１年生の代表生徒が同様の活動を行う。

成　果

●作成後の振り返りから，自分の住んでいる地域の地形的な特徴と過去の災害を知り，災害時にどんな被害が起きるかを予想できるようになり，防災・減災への意識が高まった。

●調査活動を行う過程で，生徒の視点が，普段何気なく見過ごしている箇所にも向けられるようになった。

課　題

●地形は大きく変化しないが，交通事情や生活環境は変わる可能性がある。変化に合わせてマップを更新していく必要がある。その際には，誰がどの時間にどんな活動をするのかを決めておく必要がある。

●今回は，調査の際に地域の方から情報をいただいたり，労いの言葉をかけられたりした。ただ，計画的なものではなかったことから，次年度以降に地域と連携し地域住民へのインタビューや過去の災害に関する講話などを取り入れる必要がある。

石巻市立稲井小学校（令和元年度実践校）

第４学年　総合的な学習の時間（41 時間）

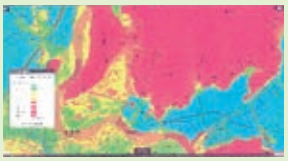
沼津貝塚出土品

テ　ー　マ　防災マップ作りを通して学ぼう～稲井の自然，歴史，安全～

ね　ら　い
- ●防災マップ作りを通して，稲井小学校区の自然や歴史のすばらしさに気付き，大切にしていこうとする態度を育てることができるようにする。
- ●防災マップ作りを通して，地域の中で安全に生活できるようにする。

指導時数・指導の流れ

〈小単元名　稲井の地形や災害について知ろう〉（１学期）…　16 時間

時数	主な学習活動	
1	総合的な学習の時間におけるねらいや活動について知る	1　単元のねらいについて確認する。 2　年間の学習活動について確認する。 3　意識調査をする。（稲井地区の特徴，よさ，過去の災害など）
2	学区の地形を知る 	1　稲井小学校区の地形について確認する。 ・航空写真（今の様子）山，川，住宅街 ・昔の地図（大正元年地図） ・土地の高さ ⇒ 低い土地 2　地形について分かったことをまとめる。
2	稲井小学区で，どんな災害が起こりそうか考える	1　稲井小学校区の地形を基に，学区で起こり得る災害について話し合う。 2　家族や地域の人にインタビューすることについて確認する。
2	稲井小学区でこれまで起きた災害について調べる	1　家族や地域の人に聞いた内容を発表する。 2　友達の発表を聞いて分かったことをまとめる。
4	ハザードマップを使って地域の災害について考える（＊石巻市ホームページより）	1　土砂災害について 2　洪水について 3　津波について 4　地震について
3	ハザードマップを使って考えたことをまとめる	1　どんな観点でまとめるのか確認する。 ・地形と起こり得る災害の関係 ・起こり得る災害の様子 ・災害への備え 2　まとめる。
2	防災マップ作りの計画を立てる	1　ハザードマップを使って考えたことを基に防災マップ作りの計画を立てる。 2　足を運んで調べたい場所について考える。 3　どんなことを調べたいか考える。

＜小単元名　防災マップを作ろう＞（２学期）…　25 時間

時数	主な学習活動	
3	学校の避難所としての機能を知る	1　校舎内を歩き，避難所になったときの各教室の役割を知る。 2　防災倉庫を見学し，備蓄している物を確認する。 3　防災倉庫で備蓄している物の使い方について考える。
4	町歩き①（全体で） （学校周辺から稲井駅方面へ）	1　町歩きの仕方を知る。（事前指導） 2　学校の周りを歩き，白地図に気付いたことを記入する。 3　町歩きについて振り返る。
3	町歩き②（班で） （新栄方面・公民館）	1　公民館の避難所としての役割について学ぶ。 2　新栄地区を歩き，防災マップ作りの資料を集める。
3	町歩き③（班で） （沼津，南境方面） 区長さんに教えてもらう	沼津方面 1　沼津貝塚を見学し，稲井地区が海だったことや湿地だったことを知る。　→　豊かな土地（作物を育てるのに適している。） 2　沼津集落センター（避難所）を見学する。 南境方面 3　金蔵寺脇の沢（蛍の生息地）を見学し，自然の豊かさに触れる。 4　美園地区を歩き，防災マップ作りの資料を集める。
1	北上川について（講話）	1　北上川の変遷や自然について　＊北上川河川事務所
7	防災マップ作り	1　防災マップの作り方を知る。 2　グループごとにマップを作る。（６時間）
2	発表準備	1　発表練習 2　発表リハーサル
1	防災マップ発表会	1　参観日に保護者に向けて発表会を行う。
1	防災マップ作りの振り返り	1　防災マップ作りから学んだことを振り返る。

成果（○）と課題（▲）

○町歩きを通して自然の豊かさ，歴史，人々の温かさを知り，それを地域のよさとしてとらえることができた。

○身近にある物（例えば，山，川，電信柱，ブロック塀など）について危険を想定する力が身に付いた。

▲学区が広く，町歩きの時間を確保することが難しかった。今年度の町歩きは，３地区を一回ずつ歩くものであったが，町歩きの地区を１つにしぼって同じ地区を複数回歩いて気付きや学びを深めることもできたかと思う。どのような町歩きが児童にとって効果的であるかを検証していく必要がある。

石巻市立万石浦小学校（令和元年度実践校）

第４学年　総合的な学習の時間（20 時間）

テ　ー　マ　復興・防災マップを作ろう～地域のよさに目を向けて～　（４年生　61 名）

ね　ら　い　自分の地域の安全のための施設を知ったり，東日本大震災からの復興の様子や災害時の行動について知ったりすることで，防災意識を高めるとともに，地域のよさに気付き，ふるさとを大切にしようとする気持ちを育てる。

指導の流れ

1 事前指導

事前の準備として，マップ作りの目的を話した。また，家庭学習として，東日本大震災時や台風 19 号の被害の様子を思い出したりインタビューしたり，地域の安全についての施設を調べたりしてワークシートに表した。東日本大震災時，児童は２歳ということで，ほとんど記憶がなく，また，万石浦地区に住んでいなかった児童もいて，震災については，あまり感じるものが多くなかった。台風 19 号の被害を加えたので，冠水や浸水の被害を実感することができた。

2 グルーピング

同じ地区の児童でグループを作った。下校時同じ方向になるように作っているたてわり班をもとにして，８人以下のグループを作った。全部で 14 グループになった。学区外や同じ地区に住む児童がいない場合は，近くの地区や祖父母が住む地区，下校時に通る地区などに入った。

3 地区探検の計画をたてる。

各グループに学区の地図を渡し，事前に書いてきたワークシートを見せ合いながら，安全・危険な場所，地区のよいところや歴史的なものなど，地区探検で見るポイントを決めた。

4 地区探検

５つの地区（あさひ・流留・垂水・塩富・万石町方面）に分かれて，引率の教員に写真を撮る場所を伝えながら探検を行った。探検しながらの気付きも大事だが，事前に見るポイントを決めておいたことで目的をもって探検することができた。

探検の様子。神社内にある井戸。震災のときにこの井戸を使っていたらしい。

5 マップ作りを行う。

誰がどの部分を書くか，どの写真を使うか，マップのレイアウトなどを考えながら作業を進めた。昨年，マップ作りをした際に，地図を模造紙に写すのに時間が掛かったという反省があったので，地図は印刷したものをそのまま貼り，見つけ

たものを書く時間を多く取った。下書きはみんなで読み合い，項目ごとに色分けした紙に本書きした。マップリーダーが最終チェックを行い，マップを完成させた。探検しての感想や安全やよりよく住むためにこんなものがあったらいいな，という希望を書く欄を設けた。
各グループのマップのよいところを紹介しながら見やすいマップになるように指導した。

マップ作りの様子。地図の水色の部分は，台風 19 号で浸水した場所を表している。

6 マップの発表

お互いのマップをしっかり見合う時間があまりなかった。
３学期に発表を行った。

成　　果

- １学期に社会で「火事からくらしを守る」の学習で，地域の安全な施設について確認していたので，その学習を生かして，安全な施設などについて再認識することができた。
- 自分たちの住む地域の避難場所や「こども１１０番の家」など，普段何気なく通り過ぎている場所が安全につながっていることに気付いた。夜になると暗いから街灯が欲しい，住宅地なのでより近いところに高い建物が欲しいなど，より安全に暮らすためのアイデアも考えることができた。
- 地域の安全なものだけでなく，歴史的なものや自慢できるものも考えさせた。それによって，難しさが増したが，地域について考えるいい機会となった。サンファンバウティスタ号や伊達の旨塩工場，神社，風景がきれいな場所など，子どもたちなりに考えて，地域のよいところを探すことができた。自分が知らなかった地域の色々な場所を知ることができた。
- 学校の前や家の近くに仮設住宅があったり，復興のための工事があちこちで行われていたりすることが，東日本大震災の影響であることが分かった。
- 項目ごとに色分けしたことで，自分たちのマップに足りない項目を書き加えることができた。

課　　題

- 地区の人数に偏りがあり，同じ地区のグループは同じような項目のマップになってしまった。
- 地区によっては，歴史的なものが近くになく，安全についての項目しか書くことができないグループもあった。
- 地区探検で調べてきたことの印象が強く，事前に記入してきたワークシートの震災や台風 19 号の様子や総合的な学習で学んだ塩についてのことなどを生かすことができなかった。
- 地名について調べてきたり，冠水したかしないかの違いを土地の高さにあると考えたりした子もいたが，掘り下げて調べる時間がなかった。

石巻市立稲井中学校（令和元年度実践校）

第１学年　総合的な学習の時間（17 時間）

テ　ー　マ　「思いやりのある復興・防災マップを作ろう！」

ね　ら　い　本校の立地状況や地理，歴史等を踏まえ，防災マップへの取組を行うことにより生徒一人一人に今後起こりうる災害への対応を考えさせる。また，本地区への郷土愛を育むとともに伝統芸能への興味・関心を高める

指導の流れ
1. 地図上から見える稲井地区の地理的条件を確認させる。
2. 現在の地図との比較から見える災害を想定し，対応をまとめさせる。
3. 全体（文化祭，授業参観等）での発表を行う。

段　階		時　数	内　容
1	オリエンテーション	2	●「復興･防災マップづくり」の必要性について考える。 ●稲井地区における災害発生時の被害状況について確認する。（東日本大震災　等） ●稲井地区に住む人々の安心・安全な生活について考える。
2	各グループで地理的状況の確認（街歩き，聞き取り調査）	2 （他　夏休みを活用）	●過去の災害状況について，家族の人々に聞く。 ●グループで自分が住んでいる地域の危険箇所について確認する。
3	郷土愛を育む	5	●稲井地区に伝わる獅子舞について本やインターネット等を活用し調べる。 ●保存会や先輩達から踊り方等を学ぶ。
4	「復興・防災マップをつくろう」	5	●グループを４つに分け，ハザードマップを活用した復興・防災マップを作成する。 ●東日本大震災や台風 19 号に伴う被災状況を復興・防災マップに入れる。 ●今後，起こりうる災害に対応すべく，一次避難場所の他，二次避難場所や病院等を復興・防災マップに入れる。
5	発表	3	●保護者参観の時に，自分達が制作した復興・防災マップを発表し，地域防災について改めて考える場を設定する。

稲井地区の地理調査

復興・防災マップに取り組んでいる様子

過去の災害状況を記入

成　　果

❶「復興・防災マップ」を作成するに当たり，一人一人が稲井地区にどのような災害が発生し，被害状況はどうだったのか，理解する上でとても役に立った。

❷東日本大震災や台風 19 号の被害状況から「ハザードマップ」に示されていない地域でも災害が発生することが分かった。

❸街歩きや獅子舞の体験を通して地域の良さを再発見することができた。

課　　題

❶復興・防災マップの他に獅子舞の歴史など，数多くの取組を進めてしまい，計画通りにならなかった。目標を絞った方が良かったと思う。

❷「復興・防災マップ」を作る上で，誰にでも分かる「思いやりのある復興・防災マップ」を作るために過去に起きた災害等を全て入れてしまい，逆に様々な情報が入りすぎたように思える。

石巻市立釜小学校（令和２年度実践校）

第２学年（35 時間），第３学年（50 時間），第４学年（50 時間），第５学年（50 時間），第６学年（50 時間）

総合的な学習の時間，国語科，社会科，理科

テ　ー　マ　「なしの実タイム」

目　　標　自らの思いや願いを持ち，地域やそこで活動する方々との関わりを通して，主体的・協働的に学習に取り組み，粘り強く追究しようとする態度を育成する。学習を通して，自己の生き方を考えたり，互いのよさを生かしたりしながら，積極的に社会参画しようとする態度を育てる。

指導の流れ（注）

（注）２年～６年までの生活科・総合的な学習の時間での学習内容について，復興及び防災に関する内容をマップにまとめた。コロナ禍でのグループ活動の制限もあり，それぞれの学年（学年部）でマップを作成することとした。なお５・６年生については，SDGs の関心に応じた異学年グループを編成して探究活動に取り組んでいる。

	▽実施学年及び主な活動内容	▽共通体験リソース	▽アウトプットの方法	▽カリキュラムマネジメント対象教科及び単元等
2年	▽学校のまわりを探検しよう ※生活科で実施 ※１学期は学年で一緒に移動し，発見したことを記録カードにまとめて，情報収集を行った。 ※２学期は調べてみたい場所やお店などの目的別グループを編成し，調査活動を行った。	▽まち探検 ▽インタビュー	▽記録カード ▽マップ	▽国語科 ●聞きたいことを落とさず聞く ●説明の順序／ちがい ●言葉をつないで話し合う
3年	▽もっと知りたい！石巻 ※自分たちの住む石巻市について調べる。特に，石巻の自然や観光資源に気付くために出前講座や校外学習を設定したり，副読本『わたしたちの石巻』を活用したりしてまとめる。 ▽津波避難ビルをさがそう ※「石巻震災伝承の会」の皆さんや地域の防災士の皆さんを講師に招いて体験学習を行う。	▽副読本 ▽出前講座［裏面新聞記事参照］ ▽まち探検 ▽津波避難ビルを探そう ▽通学路の危険個所	▽記録カード ▽マップ ▽レポート ▽リーフレット ▽防災かるた ▽お礼の手紙 ▽アンケートの集計と結果報告	▽国語科 ●大事なことを落とさず聞く ●調べて分かったことを伝える ●要約してまとめる ▽社会科 ●地図記号／方位

	❶震災の伝承と教訓を学ぼう ❷津波避難ビルを探そう（学区を３つの地区に分けて，関心のある地域でグループ編成を行った。１グループ８人程度となり，それぞれのグループには外部講師から説明を聞きながら津波避難ビルを探したり，震災当時の様子についてお話を伺ったりした。地域にある高い建物についても調査してマップにまとめていた。） ❸防災グッズをつくろう			
4年	**▽川村孫兵衛と北上川 ―釜地区の今と昔―** ※外部講師や副読本『わたしたちの石巻』『みやぎの先人集』を活用し，自分たちのくらしと川村孫兵衛の仕事について考える。収集した情報を生かして，新聞やクイズを作りながらまとめていく。 ※学区の道路に着眼しながら，①現在の工事の様子，②震災前の様子，そして③大正時代の様子を比較しながら地域の発展について考える。盛んだった釜梨の栽培についても，地質条件等を踏まえて考えた。 **▽防災新聞をつくろう　※社会科**	▽副読本 ▽先人集 ▽出前講座 ▽資料『創立50周年記念誌』 ▽校外学習（普誓寺）	▽記録カード ▽マップ ▽個人新聞 ▽リーフレット ▽年表 ▽お礼の手紙 ▽クイズ	▽国語科 ●連想メモ（イメージマップ） ●新聞のつくり方 記事の書き方レイアウト写真・資料の選び方 ▽社会科 ●年表の読み方／地図 ●昔の道具
5・6年	**▽石巻のよさを伝えよう** ※出前講座や図書資料，聞き取り調査から得た情報を基にして，石巻のよさを伝えるリーフレットを作成する。 **▽SDGsを学び，自分たちができることを考える** ※出前講座での学びから，自分の関心のある SDGs のテーマについて現状を調査したり，アクションプランを考えたりしている。［裏面記事参照］環境問題については，マイクロプラスティック問題について外部講師と一緒にリサイクル活動に取り組んでいる。平和問題については，北上川の葦の繊維を活用した支援活動に取り組んでいる。 **▽防火ポスターをつくろう　※国語科（6年）** **▽世界に目を向けて意見文を書こう　※国語科（6年）** **▽環境問題を報告しよう　※国語科（5年）**	▽出前講座（オンライン含む） ▽図書資料 ▽リサイクル活動 ▽意見文やポスター等の製作活動 ▽修学旅行 ▽花山合宿	▽記録カード ▽お礼の手紙 ▽個人新聞 ▽リーフレット ▽プレゼンテーション（動画） ▽報告文 ▽意見文 ▽オンライン対話	▽国語科 ●事実と考えを区別しよう ●意図を明確にして聞く ●資料を活用して報告する ●表現の効果を考える ●記事の書き手の意図（写真と文章の関係） ●立場を明確にする ●情報を関係付ける ●プレゼンテーションする ▽社会科及び理科 ● SDGs の取り組み

成　　果　コロナ禍における校外学習については配慮すべきことが多く，昨年までの取組を継続できなかった活動もある。しかしながら，外部講師による出前講座を設定することで，地域で活動する人々と交流したり，助言していただきながら探究活動に取り組んだりすることができた。以下に，今年度の復興・防災マップに関わる外部講師の活用についてまとめる。

２年生：学区内の各種施設／商店
３年生：石巻震災伝承の会／石巻市消防署／河北新報社 石ノ森萬画館／北上川河川管理事務所
４年生：石巻日日新聞／河北新報社／普誓寺北上川河川管理事務所／アラブの子どもとなかよくする会
５年生及び６年生：石巻市役所（SDGs 推進室）　サステナブルデザイン工房／石ノ森萬画館アラブの子どもとなかよくする会／東北電力／石巻日日新聞記者／野口英世記念館花王／いしのまき子どもセンターらいつ

３～６年生は９月に，北上川の葦の繊維を生かして紙すき体験の出前講座を体験した。すいた紙の１枚で秋に実施した運動会の招待状を作成し，もう１枚はアラブの子どもたちの支援に活用していただいた。実際に支援に取り組んでいる方からアラブの子どもたちの様子や紛争による影響について説明していただいたり，オンラインでアラブの家族とつながって情報交流をしたりすることができた。説明を聞いた４年生は，戦争や紛争は過去のものではなく，今も世界のどこかで実際に起きていることを実感し，国語科の学習に生かしていた。東日本大震災の時には，「自分たちのことよりも東北の被災地を支援してあげてほしい」と話したアラブの方々の言葉に対して，「今度は自分たちがアラブの子どもたちのために何かをしてあげたい」という感想を書いていた。一つ一つの取組は，“復興・防災”という観点で学びつながっていく学びの広がりを感じることができた。

課　　題
▼コロナ禍における活動内容の再検討
▼カリキュラムマネジメントの推進
▼出前講座の設定の吟味（外部講師とのコーディネートを含む）
▼「復興・防災マップ」と「防災マップ」との比較及びイメージの共有化

石巻市立須江小学校（令和２年度実践校）

第６学年　総合的な学習の時間（17 時間）

テ　ー　マ　私たちの未来，須江・石巻の未来

ね　ら　い　まち歩きとマップづくりを通して，ふるさとのよさと魅力を再発見するとともに，防災意識を高め，地域の未来像をもちながら生活しようとする態度を育てる。

指導の流れ

❶オリエンテーション

マップづくりの目的を話し，学区全体の地図を配付した。自分が登下校する道やよく遊ぶ場所などを確認し，普段の登下校の中で，安心・安全のための施設や備え，危険な場所や物，好きな場所やこれから大事にしたいところの３つの視点をもって確認するように伝えた。

❷まち歩きの計画を立てる

集団下校の下校班を基にして同じ地区の児童でグループを作った。各グループに自分たちの地区の地図を用意し，事前に確認しておいた安心・安全のための設備や備え，危険な場所，好きな場所やこれから大事にしたいところについてグループで発表し合って情報の共有を行った。場所を記入した地図を基に，まち歩きのルート決めや一人一人の役割分担を行った。

❸まち歩き

グループごとに５つの地区に分かれてまち歩きを行った。事前に確認したポイントや新たに発見した場所を撮影して地図上に記入した。個人では気が付かないような場所もグループで確認していくことで新たな危険箇所や安全・安心のための施設や備えについて知ることができた。

4 マップづくり

まち歩きで発見したことや気付いたことをグループで話し合いながらマップづくりを行った。はじめにグループの中でお互いの情報を共有し，マップを構成する材料の中から，誰がどの部分を作るのかを話し合わせ，グループ全員が作業できるようにした。手分けして情報カードを作成し，色別分類シールをはって番号を記入した。地図上にも自分たちが歩いた経路，調べた場所を確認しながら色別分類シールをはり，番号を記入した。「自分たちの地域のいいところ」「将来どんなまちにしたいか」「まち歩きや防災マップづくりで学んだこと」について個人カードを作成した。

成　　果

- まち歩きを行い，慣れ親しんだ地域で新しい発見をすることで，児童が地域を知ることの楽しさを味わうことができた。
- 同じ地区の児童とグループで活動することで，個人では気が付かないような危険な場所や安全・安心のための施設を友達同士で共有することができ，安全への意識が高まった。
- 好きな場所やこれから大事にしたいところを友達と共有しながらマップづくりを行うことで，地域のよさに改めて気付くことができた。
- 一人一人が役割を分担して活動することで，意欲的に活動に取り組むことができた。
- 他の地区のマップを見ることで，それぞれの地域の違いについて理解することができた。

課　　題

- 資料として，新旧の地形図や，治水地形分類図等も用意しておいたが，時間がなくうまく活用することができなかった。
- コロナ禍ということもあり，地域の方々へのインタビューやゲストティーチャーの活用などをすることができなかった。区長さんに避難場所について質問するなど，地域ぐるみで防災を考えていくことも必要だと感じた。
- お互いのマップをしっかり見合う時間がなかった。余裕をもって計画的に作成に取り組むべきであった。
- 児童の住む地域を区切ってマップづくりを行ったが，地域によっては範囲を広げてマップ作りを行っても良かった。

石巻市立鹿又小学校（令和３年度実践校）

第３学年から第６学年　総合的な学習の時間（７時間）

ね　ら　い　地域の防災に関心を持ち，危険性を知るとともに安全な行動をとることができるようにする。

テ　ー　マ　学ぼう鹿又！めざそう，安心・安全なまち！

指導の流れ

❶教職員による計画の確認

３～６年生による縦割り班（12 班）で活動するに当たり，マップづくりのねらいや作成日程，準備物等の確認を教職員で行った。通学路の危険箇所や施設・建物等を取り上げることや，作成する学区の範囲を限定し，縦割り班に作成範囲を割り振る形で取り組むことを確認した。

❷オリエンテーション

始めに，マップ作成を通して災害から身を守るために必要な行動や備えについて学んでいくことを確認した。次に，まち歩きでは安心・安全のための施設や備え，危険な場所や物，好きな場所やこれから大事にしたい所の３点に注目することを指導し，いくつか具体例も紹介した。

❸学区内まち歩きの計画を立てる

学区の拡大地図を記載したワークシートを児童に配り，縦割り班ごとに学区内まち歩きの計画について話し合わせた。ワークシートにまち歩きのルートや見学予定の場所を書き込んだ後，役割分担や準備物等の確認を行った。

❹学区内まち歩き

オリエンテーションでの話合いを基に，縦割り班で学区内まち歩きを行った。地区内の施設や防災に関するものや，危険箇所などをワークシートに記録し，マップづくりの際の資料とした。授業時数２時間の活動だったが，６年生を中心に，必要な情報を集めることができた。

❺マップづくり

縦割り班のリーダーである６年生が中心となり，学区内まち歩きで集めた情報を基に紹介したい場所や使用する写真などを話し合って決めた。児童の作業内容として，レポート用紙（文章・写真による紹介カード）の作成，色別シールの貼付けと番号の記入，感想用紙への記入などがあり，一人一役以上となるように役割を分担した。各班は，安心・安全のための施設や備えとして避難場所・消火栓，看板等，危険な場所や物として交通量の多い道路，狭い道路，用水路等，好きな場所やこれから大事にしたい所として神社，田畑，公園等をレポート用紙にまとめていた。活動を通して，児童は避難場所や防災倉庫などの安心・安全な施設が学区内にあったことに安心感を抱いたり危険箇所で安全な行動を取ることの必要性に気付いたりすることができた。

成　　果

- 初めて縦割り班でマップづくりを行ったが，異学年で協力しながら活動する姿が見られ，災害へ備えようとする意識を高めることができた。
- 安心・安全のための施設や備え，危険な場所や物，好きな場所やこれから大事にしたい所の３点に注目してまち歩きを行ったことで，危険箇所や災害への備えだけでなく地域のよさや魅力に気付くことができた。
- 普段あまり馴染みのない地区を歩いた児童にとって，他地区の危険な場所や防災の施設・設備等について知ることができた。
- オリエンテーションを行ったことで，児童は活動のねらいを意識しながらスムーズに活動を進めることができた。

課　　題

- マップ作成にゆとりを持って取り組むことができように，マップづくりの計画の検討・確認を早めに行うようにする。計画立案の段階で，区長さんなど地域の人材を活用して地域の防災活動を学ぶ機会を設定することも必要である。
- 次年度以降も縦割り班で活動する場合，高学年（特に６年生）への事前指導を更に充実させ，活動のねらいに迫ることができる取組にしていく必要がある。
- 完成したマップを見合うなど，それぞれの地区の様子について情報を共有する時間を十分持てなかった。
- 「協同的に取り組む態度」に重点を置いた活動となったが，「主体的に取り組む態度」を更に育成するために，個人の課題の持たせ方を工夫する必要がある。

石巻市立北上小学校（令和３年度実践校）
（令和３年度復興・防災マップコンクール　市長賞）

第４学年　総合的な学習の時間（20 時間）

テ　ー　マ　「復興マップ　北上小はまぎくマップを作ろう」

ね　ら　い　学校周辺を中心とした地域の復興マップを作成し，進んで調べたり体験したりする活動を通して，被災の経験と向き合い，地域の一員として地域社会に対する誇りと愛情を持ち，自ら地域の未来を考える。

指導の流れ

❶オリエンテーション（ＳＤＧｓを意識させる）【１時間】

「北上小学校の３．１１（事実）を知る」
稲井幼稚園長（北上小学校初代校長）橋本惠司　氏
＊次の３点で講話を聞かせる。
①危機意識を持つ　②自分事として考える　③自分にできることを考える

❷まち歩き（にっこり地区）の計画を立てよう【３時間】

●３．１１以前からあるもの
・北上中学校
●にっこり地区の新しくできたもの
・北上総合支所　・北上こども園　・消防署　・駐在所　・にっこり団地（追波区長）
●にっこり地区の建設中のもの
・多目的公園（仮称）　・丸山地蔵前の新橋

◆グルーピング（課題別）　３人×６Ｇ
Ａ：北上総合支所地域振興課防災部担当（２Ｇ）
Ｂ：消防署・駐在所（２Ｇ）
Ｃ：追波地区行政委員　千葉氏（１Ｇ）
Ｄ：北上中学校・北上こども園（１Ｇ）

❸まち歩きとインタビュー活動【３時間】　Ａ～Ｄの複線型で行う。

❹マップ作り【６時間】

３．１１みらいサポート指導員　高橋　正子　氏，福田　貴史　氏

❺お話を聞こう【ＳＤＧｓとの関連】【２時間】

①石巻・川のビジターセンター　平井　和也　氏〔⑬気候変動，⑭海の豊かさ〕
②北上小学校学校評議員　武山　修　氏〔⑮陸の豊かさ〕

❻ディスカッション「北上町のために，私たちにできることは何だろう」【２時間】
これまでの取材や講話を聞く活動を通して，テーマに沿って少人数Ｇで話し合う（アウトプット）。その後，全体共有を行う。子どもたちの自由な発想で話し合いをする。

❼発表会の計画・立案【１時間】

❽発信　「みんなに伝えよう　私たちの北上」【１時間】

❾振り返り【１時間】

成　　果

❶本校児童の大半がスクールバス登校である。そのため，児童にとって，バスから見える風景すべてが，日常生活で当たり前となっている。今回，学校周辺（にっこり地区）を歩き，インタビューした活動は，「人，もの，こと」の発見であり，まさに，北上町の復興のシンボルとして，児童自ら確認することができたとともに，更に，未来のまちを考える大変有効な学習となったと考える。

❷学習の後半で，「北上町のために，私たちにできることは何だろうか」と児童に問いかけた。その結果，児童から詩を作りたいという声が多数挙がった。当初の活動計画にはなかったものの，児童の願いだったため，時間はかかったが完成させることができた（「希望」）。それにより，児童の素直な心情とふるさとを愛する心，また，未来に立ち向かおうとする決意がみなぎる作品を完成することができた。
本校の教育目標「ふるさとを愛し（北上愛），豊かな知恵と心をもち，たくましく生きる児童の育成」が，児童の活動を通して実現しようという高まりが得られたと考えられる。

❸東日本大震災だけでなく，過去に巨大地震と津波を経験した北上町である。町内には，「大震嘯災津浪記念碑」４基のほか，震災モニュメント等，地震と津波の歴史が数多く存在する。今回の学習では，過去の歴史にも着眼させたり，先人の不屈の精神を学ばせたりすることができた素晴らしい機会となったと考える。

課　　題

❶本校は，海抜 31 mに存在する。なぜ，この場所に学校や総合支所，復興住宅団地，指定避難所等が建設されたのかという点について，学ばせることができた。だが，北上町全体をより俯瞰的に見る目を養うことに欠けていたように感じる。津波に限らず，自然災害に伴うリスクを地図上で学ばせたり，まち歩きを通じて体感させたりすることが重要であると考える。

❷この一連の学習の発展と継続について全職員で共有する必要があると考える。第４学年の総合的な学習としての取組であるが，系統性を考えたカリキュラム作成と位

置付けが重要であり，いかに継続させていくかが課題である。マップの完成がゴールではない。地震と津波で過去に甚大な被害を受けた北上町だからこそ，風化防止と伝承活動を重視し，学校防災のフロンティアとしてふさわしい存在でなければならないと考える。

❸「人と人のつながりは，まちづくりにも力を発揮する。」とは，石巻市教育委員会が作成した「東日本大震災　震災のまと記録集～子どもたちの未来のために～『羅針盤』」の提言 15 である。
今回の学習は，本校初代校長をはじめ，町内の多くの方々から大きな御協力をいただいたことによって実現した。今後，お世話になった方々とのつながりが絶対に途絶えることがないように，人材バンク的なデータ保管をする必要がある。

石巻市立青葉中学校（令和３年度実践校）

第１学年　総合的な学習の時間（15 時間）

テ　ー　マ　過去から学ぼう　未来へ繋げよう

ね　ら　い　復興・防災マップづくりを通して，東日本大震災時の地域の被害状況について学び，災害時の避難場所や危険個所について町歩きで確認し，安全に気を付けて生活しようとする態度を育成する。

指導の流れ

1 ガイダンス（１時間）

復興・防災マップづくりの目的，マップづくりのスケジュール，作成の手順，留意点について確認した。
グループ編成及びグループ内の役割分担を決定した。

2 防災講話（２時間）

青葉中学校区内４地区の町内会より講師を招き，震災当時の様子について講話をいただいた。

3 町歩きの計画（２時間）

学区内を６つの地区に分け，それぞれ担当するグループを決めた。ガイダンスで説明したマップづくりのポイントに従って，町歩きのルートについて話し合い決定した。また，町歩きの際の注意事項についての話し合いも行った。

4 町歩き（４時間）

事前に検討したルートで町歩きを実施した。あらかじめ確認していた避難場所などとともに，自分たちで見つけた情報について整理した。タブレットを各自持参し，マップ作成時の写真撮影を行った。CS サポーターの方に協力をいただき，当時の様子などを説明していただきながら一緒に町歩きを行った。

5 マップづくり（６時間）

町歩きで収集した情報をもとにマップを作製した。情報についてはタブレットを使って情報カードとしてまとめ，町歩きで撮影した写真を添付した。それぞれ得られた情報ごとにカードを色分けし，どの情報に関する内容か確認しやすく工夫した。

成　　果

- 震災当時の記憶がほとんどない年代の生徒たちが，自分たちが生活する地域が震災時にどのような被害を受けたのか改めて知るよい機会となった。
- 復興・防災マップづくりを通して，地域の避難所や危険個所を知ることができ，万が一の災害の際に自分たちの身を守る知識を身に付けることができた。
- 防災講話や町歩きでの地域の方たちとの交流を通して，より深く防災について学習することができた。また，改めて地域の一員としての自覚を高めることができた。
- タブレットを活用してマップづくりを行ったが，より生徒たちの意欲の高まりが見られた。また，情報カードの作成や写真の添付などもスムーズにきれいに行うことができた。

課　　題

- 地域の方に講話をいただいたり，一緒に町歩きをしていただいたりしたが，お話しいただいた内容をマップにうまく落とし込むことができなかった。インタビューなども計画していたが，時間が取れずせっかくの地域の方のお話をうまく生かすことができなった。
- ６つのグループが作成したマップを張り合わせて１枚のマップとしたが，細かいところの確認が不足したためか，やや統一感のない内容となってしまった。
- マップを作ることが一番の目的となってしまい，マップづくりを通して子供たちに学ばせたいことが少しぼやけてしまった。震災の教訓を風化させないこと，マップづくりを日常生活に生かすことについて，もう少し深く指導できればよかった。

石巻市立住吉小学校（令和４年度実践校）

第４学年　総合的な学習の時間（20 時間）

テ　ー　マ　生きていく私たち
～地域を知る　地域とつながる～

ね　ら　い

(1) 地域を知ることが児童の防災意識の高揚につながると考え，普段見慣れている地域に気付かないところがあることを体験的に理解させることを通して，地域を見直そうとする意識を高める。

(2) 指導する場面と自力解決をする場面を意図的に設定し，児童の防災に関する主体的な判断力を高める。

(3) NPO 法人・減災サポートセンターの皆さんを始め，地域人材を活用し，保護者にも参加していただくことで，地域の防災意識を高める。

町歩きの準備の様子

町歩きの準備の様子

指導の流れ

段階	主な学習活動	時数
関心をもつ目的の共有	活動全体の見通しをもつ	1
	町歩きの準備をする（NPO の協力）	3
	町歩きをする（NPO の協力）	4
自力解決 まとめる 広 げ る	アンケート調査の準備・実施	2
	マップの作り方を理解する	2
	町歩き（２回目）をする	2
	マップにまとめる	5
	まとめたことを紹介し合う	1

成　　果

(1) NPO の方々のサポートで，専門的な観点をもって町歩きをすることができた。

(2) マップ作りを通して，子どもたちは自分の身近なところに安全な生活や災害時に役立つ施設や目印があることに気付いていた。

(3) 課題解決（課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ）の一連の活動の中で，自分たちの学びを伝えたいという意識が高まっていった。

町歩きの様子

課　　題

(1) コロナ禍の下での学習活動は様々な配慮が必要であった。外部の方々の参加・協力をいただき，今後も継続して地域防災を考えていくための手立てを考えていきたい。

(2) 東日本大震災から 10 年以上が経過し，震災当時は生まれていない子どもたちが学習者となっている。災害に対する正しい知識を身に付けさせ，今後，いざという時に主体的に行動できる防災力を育んでいくことが大切であると感じた。

町歩きの様子

防災マップ作成の様子

石巻市立山下小学校（令和４年度実践校）

第４学年　総合的な学習の時間（15 時間）

テ　ー　マ　親子で防災まち歩きを行い，学区の特長を捉えながら危険箇所，安全な場所を確認しよう。

ね　ら　い　自然災害に備えて何をしておけばいいのか，災害が起きたときにどのようにすればいいのか，調査や体験を通して知ることにより，防災の意識を高める。

指導の流れ

〈つかむ〉３時間

●震災当時，避難所として機能していた山下小学校について知る。

・震災当日の山下小学校の様子について。（体育館の収容人数，暖の取り方，妊婦さんの対応など）
・どのようにして生活を成り立たせていたか。（食事面，水の確保，衛生面，教室毎の住み分け）
・子どもたちの学校生活は実際どうだったか。
・いただいた支援やボランティア活動について。
・情報が正確かどうか判断することの大切さについて。

【講師：髙砂 宏之様（元・本校教務主任）】

●防災まち歩きの活動内容について知り，グループで役割を分担したり，歩く範囲などの計画を立てたりする。

・事前学習を行う。（様々な自然災害について知る。）
・石巻市に大きな被害をもたらした東日本大震災について知る。（特に学区内近辺の様子を写真で知る）
・津波予想マップと実際の津波が来たエリアとの違いについて知る。
・まち歩きに必要な準備物を確認したり，まち歩きで発見するポイントを予習したりする。

【講師：専務理事　中川 政治様（3.11 メモリアルネットワーク）】

〈広げる〉４時間

● PTA 学年行事として親子防災まち歩きを行う。

・登下校コースに合わせて７つのグループで活動する。
・まち歩きワークシートや学区地図は「3.11 メモリアルネットワーク」から提供していただく。
・一人一人がタブレットを持ち，危険箇所や安全な場所を撮ったり，津波伝承アプリで浸水深を確認したりする。
・事前に連絡をして了承いただいた方や，同行していただいた家族にインタビューをする。
【あまじん本舗，石巻カトリック幼稚園，元消防士（児童の祖父），当時の山小生など】
・まち歩きで気付いたことを地図上で確認し，グループの仲間と集めた情報を整理する。

〈深める〉８時間

●防災マップづくりに取り組む。

・５つのグループにまとめてマップづくりを行う。
・グループごとにマップのタイトルを考える。
・写真とその場所の説明を書いたコメントカードを分担して作成する。指定避難場所を緑色，避難できそうな場所を青色，危険箇所を赤色，残したいものを黄色にしてカードにシールを貼り，地図上のその場所にも同じ色のシールを貼る。
・インタビューの内容をまとめる。
・コメントカードをラミネート加工し，全体の仕上がりをイメージしながら地図上に貼る。

成　　果

●震災後に生まれた子どもたちは，家族から話を聞いたり，学校の防災タイムで学んだりと，震災に関わる情報や知識は少なからずもっていたが，実際にまち歩きをし，マップ作りに励んだことで，相手意識を持って，たくさんの人に命を守る方法を伝えたいという気持ちを高めることができた。

●５つのグループに分けてまち歩きをし，マップ作りをしたことで，同じ学区内でも浸水した場所，高台にあったので避難者が多く訪れた場所（山下小学校や石巻中学校，石巻市総合体育館など）と，大きな違いを生む地域であることを実感することができた。

●たくさんの人が知恵を出し合い，相手を思いやりながら避難生活をしていたこと，小さな命の誕生をみんなで支えたことなど，地域の避難所であった自分たちの学校に愛校心を高めることができた。

課　　題

●学校として初めての試みだったため，指導計画の作成に難しさを感じた。その一つとして，よりたくさんの情報を収集するために外部講師を依頼したり，専門的なアドバイスを求めるために関係団体とつながりをつくったりすることに時間を要した。次年度以降は今年度の取組や他校の実践を参考にしながら指導計画を作成し，自校化を図りたい。

石巻市立山下中学校（令和４年度実践校）

第１～３学年　生徒会執行部と「シリウス」，主に放課後を活用（約６時間）

テ　ー　マ　(1) 山下中学区の魅力と災害時のリスクを考え，復興・防災マップを作って保護者や地域の人々に伝えよう。
(2) 先輩から後輩へ，生徒健全育成ボランティア「シリウス」から全校生徒へ，学校から地域へと，思いをつなげよう。

ね　ら　い　(1) 東日本大震災の記憶が鮮明ではない世代の生徒の防災意識を喚起する。
(2) 自分たちの住む地域を様々な視点から見直す活動を通して，地域の魅力や課題を考える。
(3) 中学生の視点で捉えた地域の魅力や課題を，保護者や地域の人々に発信する。

指導の流れ

活動日程	活動内容	備考
7月11日（月）	「復興・防災マップづくり」に向けた，事前打合せ ・事業の説明 ・アドバイザーの先生方からのお話 ・コミュニティスクール防災班の方々との連携　　など	
7月19日（火） 放課後	「復興・防災マップづくり」のガイダンス ・趣旨説明　・事例提示　・アンケート調査 ・担当地区の決定（担当教員を後日設定）	・シリウス ・執行部
~~8月27日（土）~~ ~~8：45～9：45~~ ※雨天，及び，感染症対策のため延期 ↓ 9月28日（水） 放課後 14:30～15:30	「街歩き」 ・担当教員と保護者，担当生徒で歩いて，情報収集する。 （例）様々なリスク：交通量の多い道，狭い道，死角になる場所，水関係の危険 3.11の被害状況：保護者の話，地域の話，津波浸水深 地域の良いところ：復興した場所，地域の便利なところ	・シリウス ・執行部 ・PTA健全育成部
10月，11月	「まとめ活動」 ・街歩きまでをまとめる。	・シリウス ・執行部
12月2日	「防災マップコンクールへ応募」	
~~12月10日~~ ※感染症増加のため中止	~~「PTA教養部　教育講演会」~~ ~~「新ハザードマップを用いた地域防災について（仮）」~~	~~PTA教養部~~ 全校
1月前半 総合	「山中学区を地形図などから考えよう」 ・地域の様子を学習する。 ・シリウスで作成した防災マップとハザードマップ，地形分類図などを見て，地区の災害リスクを考える。	・全校 ・各担任

1月後半	「全校発表」	・シリウス ・執行部
2月中頃 放課後	「広報活動」 ・ヨークベニマル等で呼びかけとまとめのビラ配り	・シリウス ・執行部

成　　果

マップづくりでは，町歩きを通して，生徒に地域の魅力や防災上の弱点などを再発見させることができた。

マップづくり実施後に行った学校アンケートにおいて，生徒，保護者ともに，「登下校時の災害時の避難経路について確認している」の項目や，「学校は，防災に関する学習を積極的に取り入れている」の項目の評価が向上しており，防災マップづくりに携わった生徒はもちろん，他の生徒や保護者にもこの活動の効果は伝わっている様子が見られた。

また，マップづくりに参加した生徒へのアンケートからは，「自分の住んでいる地域は，大雨や洪水の際に注意が必要であるとわかった。」，「地震などの防災には強いが，交通安全上は気を付ける必要があることが分かった」など，具体的な気づきが得られた。

マップづくりの街歩き

まとめ活動の様子

課　　題

本マップは，生徒健全育成ボランティア「シリウス」の生徒と，生徒会執行部が中心となって作成した。そのため，マップづくりに参加していない生徒は，完成したマップを見ることでしか防災活動に参加できていない現状がある。

そこで，今後の全校への発表会では，単なるマップの発表だけでなく，町歩きをしたり，マップを作るために調べたりした際の生徒の気づきも含めて全校生徒へ発信させ，防災マップで得た学びが皆に共有できるようにしていきたい。

また，作成したマップを用いて，総合的な学習の時間で防災学習を行い，自分が回れなかった地域のことも学習できるようにする活動や，このマップを，各地区の区長や民生委員の方にお届けし，地域防災にも役立ててもらう活動も計画している。

もう一つの課題として，マップの作成時期が夏から秋にかけてであったため，現在の防災マップには冬季の危険個所が記載されていない。そのため，次年度以降に冬季の危険個所調べなどを実施し，マップの内容をさらに充実させていきたいと考えている。

石巻市立大谷地小学校

（令和３年度復興・防災マップコンクール　東北大学災害科学国際研究所特別賞）

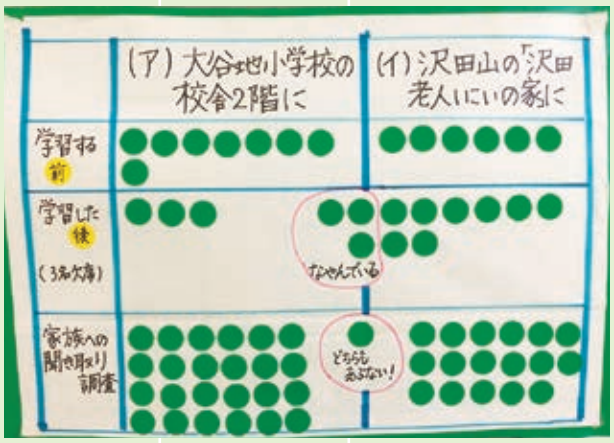
第６学年　総合的な学習の時間（51 時間）

テ　ー　マ　「わかくさタイム（総合的な学習の時間）」

目　　標　自らの思いや願いを持ち，地域やそこで活動する方々との関わりを通して，主体的・協働的に学習に取り組み，粘り強く追究しようとする態度を育成する。学習を通して，自己の生き方を考えたり，互いのよさを生かしたりしながら，積極的に社会参画しようとする態度を育てる。

指導の流れ

	▽主な活動内容	▽共通体験リソース	▽アウトプットの方法	▽カリキュラムマネジメント対象教科及び単元等
第一次（5時間）	▽津波避難のシミュレーションをしてみよう！ ※「石巻震災伝承の会」を講師に招いて体験学習を行った。学習した内容は以下の通りである。 ❶震災の伝承と教訓を学ぼう ❷津波避難のシミュレーショ体験を通して，避難する際に大切にしなければならないことを考えよう ❸防災グッズをつくろう 避難所での生活について考え，児童用椅子と段ボール，ごみ袋などを用いて簡易トイレを製作する。	▽出前講座［裏面新聞記事参照］ ▽通学路の危険個所 ▽下校時避難訓練	▽ワークシート ▽段ボールとごみ袋による簡易トイレの製作 ▽お礼の手紙	▽理科 ●「大地のつくり」 ●災害想定ハザードマップ
第二次（6時間）	▽地域の危険箇所を考えよう ※地域の危険箇所について，家族や地域の方に聞き取りをして情報を収集する。タブレット端末を活用して，画像データを学級で共有した。	▽避難訓練（沢田山への避難）	▽アンケートの集計と結果報告	▽タブレット端末を活用した画像処理及び情報収集

	▽水害での避難方法について考える ※東北大学国際災害科学研究所より佐藤先生をお招きした出前講座を実施。水害避難の際には，校舎は避難場所に適していないということを学び，第三次避難場所である沢田山への避難について考える。学校から 20 ～ 30 分程度歩かなければならない沢田山へ避難した方がよいのか，学校に留まる方がよいのかを考え，さらに家族への聞き取り調査を行った。			
第三次…5・6年合同による取組（40時間）	▽石巻のよさを伝えよう ※石巻の自然や観光資源に気付くために出前講座や校外学習を設定したり，観光協会等の資料を活用したりして，修学旅行で会津地域の方々に石巻について伝えるリーフレットを作成した。 ※出前講座や図書資料，聞き取り調査から得た情報を基にして，石巻のよさを伝えるリーフレットを作成する。 ▽ SDGs を学び，自分たちができることを考える ※出前講座での学びから，自分の関心のある SDGs のテーマについて現状を調査し，アクションプランを考えている。［裏面記事参照］環境問題については，マイクロプラスチック問題について外部講師と一緒にリサイクル活動に取り組んでいる。平和問題については，北上川のヨシの繊維を利用した紙すきや，自分たちが栽培した植物で草木染めをするなどして支援活動に取り組んだ。 ▽防火ポスターをつくろう ※国語科（6年） ▽世界に目を向けて意見文を書こう ※国語科（6年） ▽環境問題を報告しよう ※国語科（5年）	▽出前講座（オンライン含む） ▽図書資料 ▽リサイクル活動 ▽意見文やポスター等の製作活動 ▽修学旅行 ▽藍染め体験，草木染め体験，紙すき体験	▽記録カード ▽お礼の手紙 ▽個人新聞 ▽リーフレット ▽プレゼンテーション（動画） ▽報告文 ▽意見文 ▽オンライン対話	▽国語科 ●事実と考えを区別しよう ●意図を明確にして聞く ●資料を活用して報告する ●表現の効果を考える ●記事の書き手の意図（写真と文章の関係） ●立場を明確にする ●情報を関係付ける ●プレゼンテーションする ▽社会科及び理科 ● SDGs の取組と地球環境 ● SDGs の取組と国際貢献

成　　果

コロナ禍における校外学習については配慮すべきことが多いものの，外部講師による出前講座を設定することで，地域で活動する人々と交流したり，助言していただきながら探究活動に取り組んだりすることができた。“復興”や“まちづくり”に取り組む方々にご指導をいただきながら，児童は自分たちなりに「あの日に何が起こったのか」「これから想定される災害は何か」「どのように自分たちは避難するとよいのか」という視点で探究を進めていた。特に，避難訓練では第三次避難場所である沢田山避難を経験し，水害の際の避難をどのようにしたらよいのか，出前講座を通して考え，さらに家族への聞き取り調査を実施しながら，命を守る行動について大人の意見も多様であることに気付くことができた。その状況による判断やハザードマップの情報の活用などが大切であることを児童は学んでいた。

また，環境問題や国際協力にも取り組んでいる。洗剤の詰替え容器の回収活動を通して，マイクロプラスチック等の問題について考えたり，北上川のヨシを活用した紙すき体験や藍染め体験を通して，戦争のために医薬品等が不足している中東への支援に取り組んだりした。SDGs の取組の一つとして“復興”や“防災”“まちづくり”について考えるカリキュラムデザインを行うことにより，それぞれの学びが相互につながり合っていることを確認することができた。そして，自分たちもまたつながりの中で生きていることを感じ取っていた。

課　　題

▼コロナ禍における活動内容の再検討

▼カリキュラムマネジメントの推進

▼出前講座の設定（外部講師とのコーディネートを含む）及び体験活動における身に付けさせたい力の明確化

石巻市立飯野川中学校

（令和３年度復興・防災マップコンクール　東北大学災害科学国際研究所特別賞）

第３学年　総合的な学習の時間（「地域」単元）（24 時間）

テ　ー　マ　原発事故発生時の対応

目　　的
- ●自分たちの「地域」とそこにある課題を「防災」の面から考える。
- ●原発事故発生時の対応を具体的に考える機会を持つ。

現　　状
- ●目に見えない放射線が敵であり，実感が伴わない。
- ●土地勘が無く，他地域への移動が伴うため，避難行動が漠然としている。
- ●生徒にとっては，やってもらうことが多く，主体的になることができない。
- ●自治体の周知が不十分で，保護者，地域住民の理解度も低い。

課　　題
- ●その行動が，放射線を避けるにあたり，どのような意味があるかを明らかにする。
- ●原発事故発生時に必要な知識（UPZ，避難先自治体，受付ステーション，避難所，一時集合場所，避難ルート等）を理解させる。
- ●復興・防災マップの形式に表現させる。
- ●現時点でできなくても，内容を理解することで協力できるようになる。もしくは，成長後には主体的な行動が可能になる。

活 動 内 容
- ●総合的な学習の時間「地域」で取り上げる。
  - （A）原発事故発生時の避難行動の問題点・疑問点を考える。
  - （T）知っておくべき知識，解決策を明らかにし，地図に集約する。
  - （F）問題・疑問が解消される。
  - （↓）主体的な行動に近付く。
- ●校外学習は 9/24（金）を想定，居住地区ごとに一時集合場所を確認する。
- ●サイズ縦 160 ×横 220（模造紙横４枚程度）
  - **・大きな紙１枚の中に，事案毎の地図が複数ある形を想定している。**
- ●文化祭で発表・展示する。
- ●成果物は石巻市復興・防災マップコンクールに出品する。（12/3 〆切）

スケジュール（24 時間扱い）

1. 8/27　ガイダンス
2. 8/31「広域避難計画」を確認する。
3. 9/1　A　（マップ準備）
4. 9/8　T　（マップ準備）
5. 9/10　T　班編制，役割分担，活動計画
6. 9/13　T　調査①（UPZ）
7. 9/15　T　調査②（避難先自治体）
8. 〃　T　調査③（受付ステーション）
9. 9/21　T　調査④（避難所）
10. 〃　T　調査⑤（一時集合場所）

⓫ 9/22　T　調査⑥（避難ルート）（脚本執筆）
⓬ 〃　中間確認・調整　（脚本執筆）
⓭ 9/24　T　校外学習
⓮ 〃　T　一時集合場所（バス停）を現認
⓯ 10/13　F　マップ制作①
⓰ 10/14　F　マップ制作②
⓱ 10/19　F　マップ制作③
⓲ 10/20　調整会議①
⓳ 10/21　調整会議②
⓴ 10/22　発表準備①
㉑ 10/25　発表準備②
㉒ 10/27　発表準備③
㉓ 10/28　最終調整・リハーサル
㉔ 10/29　発表（文化祭）

⓭ 校外学習実施計画

1　ねらい	❶自分たちの「地域」とそこにある課題を「防災」の面から考える。 ❷原発事故発生時の対応を具体的に考える機会を持つ。
2　概要	❶実 施 日　令和３年９月 24 日（金） ❷場　所　各行政区毎に定められた一時集合場所 ❸現地確認　３学年スタッフ ❹参加生徒　男子１４名　女子１４名　計２８名 ❺移動手段　徒歩もしくは自転車 ※いったん下校し，自宅からの経路を確認しながら現地に向かう。教師と共に確認後は現地解散，帰宅とする。
3　課題	❶各行動が，放射線を避けるにあたり，どのような意味があるかを明らかにする。 ❷原発事故発生時に必要な知識を理解させる。 ❸現時点でできなくても，内容を理解することで協力できるようになる。もしくは，成長後には主体的な行動が可能になる。 ❹復興・防災マップの形式に表現させる。
4　対策	❶実際に，各行政区毎に定められた一時集合場所を確認する。 ❷実際に，自宅から一時集合場所までの経路を確認する。 ❸一時集合場所を使用しなければならない場面を考える。 ❹確認した一時集合場所を復興・防災マップ上に集約・表現する。
5　スケジュール	13：10　オリエンテーション・安全指導 13：30　各自，学校を出発（自転車もしくは徒歩） 14：00　自宅到着完了，各自準備をして移動開始 Ａ班　①　飯野川中学校　②　飯野川小学校　③　源光寺会館 Ｂ班　④　牧野巣公民館　⑤　中野林業センター ⑥　馬鞍老人憩いの家　⑦　中島生活センター Ｃ班　⑧　河北総合センター　⑨　後谷地老人憩いの家 ⑩　大谷地小学校 14：10　Ｂ－④　一時集合場所到着（予定） 14：15　Ａ－①，Ｃ－⑧　一時集合場所到着（予定） 14：20　Ｂ－⑤　一時集合場所到着（予定） 14：30　Ｂ－⑥　一時集合場所到着（予定） 14：35　Ａ－②，Ｃ－⑨　一時集合場所到着（予定） 14：40　Ｂ－⑦　一時集合場所到着（予定） 14：45　Ａ－③，Ｂ－⑦，Ｃ－⑩　一時集合場所到着（予定） 14：50　確認完了・現地解散
6　その他	●小雨決行。大雨警報発表もしくはその恐れがある場合，午前中に雨量が増えた場合は延期する。

成果（○）と課題（△）

○複雑な原子力災害時の広域避難計画を，居住地に落とし込んで，具体的に理解することができた。
○原子力災害に対する防災意識が高まった。
○復興・防災マップの紹介並びに原子力災害を題材にした劇の公演によって，周知が不十分であった保護者や地域住民にも啓発することができた。
△実際に見学できたのは一時集合場所のみで，生徒の生活経験ではまだ曖昧な部分が多い。

（写真：石巻市教育委員会提供）

石巻市立万石浦小学校
（令和３年度復興・防災マップコンクール　教育長賞）

第４学年　総合的な学習の時間（20 時間）

テ　ー　マ　復興・防災マップを作ろう～震災から１０年，未来に向けて～　（４年生　３９名）

ね　ら　い　自分の地域の安全のための施設を知り，東日本大震災からの復興の様子や災害時の行動について知ることで，防災意識を高めるとともに，地域のよさに気付き，ふるさとを大切にしようとする気持ちを育てる。

指導の流れ

1 事前指導（３時間）

- 事前の準備として，マップ作りの目的と活動のねらいを話した。毎年地区ごとにマップを作っていたが，今年度は，全学区を１枚のマップに仕上げ，いつも学校に掲示し，活用できるものを作ることを伝えた。
- 社会科の「地震からくらしを守る」の学習と関連させ，家庭で備えている物と学校の備蓄倉庫にあるものを調べさせた。また，東日本大震災のときの様子について，保護者にインタビューをさせた。
- 毎月の「防災タイム」で活用している「未来のつばさ」を読ませ，マップに取り入れられそうなものを考えさせた。
- 毎年４年生がマップを作成しているので，３年間保存してあるマップを提示してイメージをもたせた。
- BFC 活動で，消防署の方にマップ作りについて指導していただいた。避難ビルやタワー，避難所のマークについての説明や，消火栓，子ども１１０番の家について詳しく教えていただいた。

2 グルーピング（１時間）

- 同じ地区の児童でグループを６グループ作った。学区外通学や人数が少ない地区の児童は，近くの地区や祖父母が住む地区，下校時に通る地区などに入った。

3 地区探検の計画（１時間）

- 各グループに学区の地図を渡し，昨年のマップを参考にしながら，安全・危険な場所，地区のよいところや歴史的なものなど地区探検で見るポイントを決めた。

4 地区探検（４時間）

- ５つの地区（あさひ・流留・垂水・塩富・万石町方面）に分かれて，探検を行った。探検しながらの気付きも大事だが，事前に見るポイントを決めておいたことで目的をもって探検することができた。また，グループで１台タブレット端末を持たせ，自分たちで写真を撮らせた。

5 地区探検の発表会（２時間）

●地区探検でタブレットに記録してきた写真をお互いに見せ合う場を設けた。写真を見せながら，気が付いたことを発表させ，情報を共有させた。

6 マップ作り（７時間）

●地区ごとにどの写真を使うか，を考えながら作業を進めた。下書きはみんなで読み合い，ピンク色が危険，青が安全，黄色が自慢できるものや歴史的なもの，という項目ごとに色分けした紙に清書した。また，学区の地図全体を，東日本大震災での浸水状況を色分けした。これは，学区を探検しているときに見つけた浸水区域が書いてある掲示板を参考にした。緑色が避難所，黄色が 0.0 m～ 0.5 m，オレンジ色 0.5 m～ 1 m，ピンクが 1 m～ 2 m浸水した場所であることを示した。

●探検しながら地区の方にインタビューを行い，その内容もマップに反映した。震災当時の様子は，長年学校で働いている用務員さんや，支援員さんへインタビューを行った。

7 マップの仕上げ（２時間）

●仕上がったマップを全員で見合い，足りない所や付け足したいことを話し合った。

成　　果

●１枚のマップにまとめることで，東日本大震災の津波の被害状況を詳しく知ることができた。そして，自分たちの住む地区について，地震や津波が来たらどこに避難したらよいのか，一番安全な場所はどこか，具体的に確認できた。特に，海の近くの地区が浸水しなかったのに，離れた地区に津波が２メートルきたのは，赤堀を津波が遡り，あふれたためということが分かった。

●震災から１０年が過ぎ，防潮堤ができたり，赤堀の埋め立て工事をしていたり，復興が進んでいることを知ることができた。

●地域や学校，保護者へのインタビューなど，人と関わる活動を多く取り入れた。震災当時の様子を聞くことで，自分たちはこれからどのように行動し，どのように伝えていかなければならないのかを考えることができた。

●社会の「火事からくらしを守る」の学習や BFC 活動で，地域の安全な施設について確認していたので，その学習を生かして，安全な施設などについて再認識することができた。

●地域の安全なものだけでなく，歴史的なものや自慢できるものも考えさせた。サンファンバウティスタ号や牡蠣，海苔工場，神社，風景がきれいな場所など，子どもたちなりに考えて，地域のよいところを探すことができた。自分が知らなかった地域の色々な場所を知ることができた。

課　　題

●地区ごとの選んだ写真が，他の地区と同じような内容のものもあった。全体でどの写真を選ぶかなど，話し合い，バランスを考えさせればより良い内容になると思う。

●地区の安全なところや避難場所は確認できたが，避難ルートまで確認できなかった。１番安全な場所は「とりあげの避難場所」と地域の方に教えていただいたが，その場所以外に山へ逃げるルートがあるのか等，掘り下げて調べることはできなかった。

●あさひ地区は住宅街で高い建物がないことに気付いていた。これから自分たちの住む地域に必要なものは何かなど提案させたかったが，時間が足りなかった。

（写真：石巻市教育委員会提供）

石巻市立飯野川小学校
（令和３年度復興・防災マップコンクール　地域連携会議会長賞）

第６学年　総合的な学習の時間（14 時間）

テ　ー　マ　「地域の安全を調べよう」

目　　標　●自分たちが住んでいる地域の防災・安全について調べ，自分たちにできることを考える。
●自分たちが住んでいる地域で調べたことを基にして，防災マップを作る。

月	段階	活動内容	指導上の留意点
11月	つかむ	❶自分たちが生活している地区について考える。 ・危険な箇所について ・安全のための設備・施設について	●「地震」「火災」「津波」「洪水」「土砂災害」など災害に関するワードをいくつか提示する。 ●各地区の写真を提示し，イメージしやすくする。
1時間		❷気付いたことを発表し合う。	●８つのグループ（地区）に分かれ，考えたことを発表し合う。 ●東日本大震災による地区の災害状況について教師から話す。
		❸課題を設定する。 「防災マップを作ろう」	●地区内でも知らないこと，地区の人でさえ知らないことを調べるよう促す。
	追究する	❹調査，活動を始める。 ・「地震」「火災」「津波」「洪水」「土砂災害」のワードをもとに危険な箇所や安全のための設備・施設の場所を調べ，写真を撮る。	●学区が広いため，全員での校外学習は不可能である。土日の課題として取り組ませ，カメラを持たせる。 ●始めは個人作業で実際に地区を歩き，危険な場所や安全な場所を見付け，写真を撮る活動を行わせる。
		❺グループごとに集まって調べてきたことをまとめる。	●グループで集まり，見付けてきた場所の確認を行う。調べてきた場所がなぜ危険・安全なのか話合いを行う。
		❻防災マップを作る。 ○危険な箇所…赤のシールと紙を貼る。 ○役に立つ施設…黄のシールと紙を貼る。 ○避難所…緑のシールと紙を貼る。	●調べてきたことを３色に分ける。 ●地図上にシールを貼り，空いているスペースに説明を入れる。その際，地域の人たちに発信していけるように呼び掛ける形でまとめさせる。 ●土砂災害については，石巻のホームページに掲載されているハザードマップから調べさせ，危険があるところを地図上で色付けする。

11時間	❼標語を考える。	●日頃から防災マップを確認してほしいという子供たちの思いが伝わるよう，グループで標語を考え，大きな見出しにする。
まとめる 2 時間	❽発表会する。 ❾まとめる。	●防災マップ作りを通して学んだことや工夫したことも含めて発表する。 ●この防災マップ作りを通して学んだことや考えたことを書き，発表する。

成　　果

●危険な場所について，なぜそこが危険なのか話合いを行ったことによって，写真に加えて，自分たちなりの気付きも合わせてまとめることができた。

●危険な場所（赤色），役立つ場所（緑色），避難場所（黄色）など，色分けしたことによって，誰でも分かりやすく確認することができるような工夫ができた。

●飯野川は山に囲まれている地区が多いため，土砂災害の危険があることを子供たちもよく理解していた。土砂災害の危険性も伝えたいと子供たち自身から意見があり，意欲的に取り組む姿が見られた。

課　　題

●飯野川は非常に学区が広いため，大きい地図を用意することができなかった。そのため，黒の模造紙に地図を貼りつけることに加え，写真や解説，標語を入れて全体が目立つように工夫した。

●地域が広すぎるため，学区内全てをマップに表すことができなかった。

（写真：石巻市教育委員会提供）

石巻市立鮎川小学校
（令和４年度復興・防災マップコンクール　市長賞）

第３・４学年　総合的な学習の時間（15 時間）

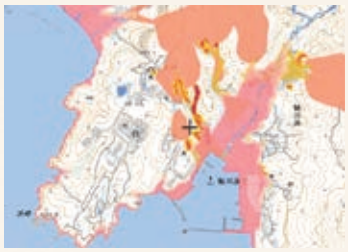
テ　ー　マ　鮎川小学校　復興・防災マップ　～自然豊かで，人が集まる，安全なまち～

ね　ら　い　復興・防災マップづくりを通して，地域の災害による危険性について知り，防災の意識を高めるとともに，地域の未来を考えることができるようにする。

指導の流れ

１ オリエンテーション（1 時間）

マップづくりの目的を伝え，津波浸水想定区域，土砂災害危険区域を示した地図を配付した。避難所や危険な場所，安心安全のための施設や備えの視点で地図を確認し，復興・防災マップに何をまとめていくかについて話し合った。



２ 復興・防災マップづくりの計画を立てる（１時間）

本校はセーフティプロモーションスクール認証校として，通学路の危険箇所点検や防災副読本を活用した防災学習，地域の特性を踏まえた避難訓練を行っている。これらの中で復興・防災マップにまとめたいことや，これから調べたいことについて話し合い，計画を立てた。

３ 土砂災害，津波について調べる（3 時間）

防災副読本やインターネットを活用し，土砂災害や津波について調べ，タブレットの Keynote を活用してまとめた。

４ まち歩きの計画を立てる（1 時間）

これまでの危険箇所点検や，事前に確認しておいた安心安全のための施設や備え，危険な場所，過去の災害に関する伝えたいことがある場所について情報の共有を行った。ワークシートに確認する場所を書き込み，まち歩きのルート決めを行った。

５ まち歩き（３時間）

「避難場所」「危険な場所」「安心安全のための施設や備え」「過去の災害に関する伝えたいことがある場所」の４つの視点でまち歩きを行った。事前に確認したポイントや新たに発見した場所を撮影しながら，気が付いたことをワークシートに記入した。普段生活をしている地域ではあるが，視点を明確にして全員でまち歩きを行うことで，多くのことに気付くことができた。

６ マップづくり（５時間）

まち歩きで発見したことや気付いたこと，これまでに調べたことについて学級で話し合いながらマップづくりを行った。手分けして情報カードを作成し，色別分類シールを貼って番号を記入した。地図上にも自分たちが調べたり見学したりした場

所を確認しながら色別分類シールを貼り，番号を記入した。BFC 活動で行った消防署の方へのインタビューや，保護者へのインタビューもマップに反映した。

7 発表（1 時間）

学習参観日に保護者に向けて，復興・防災マップの取り組みについて発表を行った。自分が復興・防災マップづくりに取り組んで気付いたことや友達が調べた内容についての自分の考え，これからどのようなことに気を付けるべきかについて発表することができた。

作成した復興・防災マップは，牡鹿半島ビジターセンターに展示され，地域の方々にも見てもらうことができた。

成　　果

- まち歩きを通して，地域の危険個所や安心安全のための施設や備え，避難場所，過去の災害に関する伝えたいことがある場所について，普段の生活では気が付かないようなことや施設の良さに気付くことができた。
- 地域の方や消防署，保護者にインタビューをしたことから，東日本大震災後に生まれた児童たちが，東日本大震災について知り，これからも伝えていこうという気持ちをもつことができた。
- 震災後にできた施設を見学し，地域の歴史を知ることで，地域への愛着が深まった。
- 地域の良さを再確認することで，その良さを生かした地域の未来について考えることができた。

課　　題

- 本校の児童は，ほとんどがスクールバスや保護者の送迎で登下校を行っている。そのため，自分たちの学区を歩くという経験をあまりしていない。まち歩きをした結果，地域の現状をあまり知らないことが分かった。まち歩きを数回行うなど，自分の足で歩き，自ら見たり聞いたりすることで地域について知る機会を多くつくることも重要だと考える。

石巻市立北上小学校
（令和４年度復興・防災マップコンクール教育長賞）

第４学年　総合的な学習の時間（20 時間）

テ　ー　マ　避難場所は，災害の種類によって違うことに気付こう

ね　ら　い

(1) 学校周辺（にっこり地区）を歩いて施設や店舗等に従事する方々にインタビューする活動を通して，今後起こりうる災害への備えなどについて知る。

(2) 津波浸水地域と土砂災害危険区域の「重ねるハザードマップ」の作成を通して，そこから見える北上地区の災害リスクを知る。

(3) 旧門脇小学校を訪問・見学し，東日本大震災時の北上地区に存在した３校（旧橋浦小学校，旧吉浜小学校，旧相川小学校）の被災状況と比較することを通して，避難所の役割を見直す。

旧門脇小学校を訪問・見学

指導の流れ

(1) オリエンテーション【１時間】

①昨年の復興・防災マップを見てみよう（北上漁協からいただいた資料「3.11 の前後の北上地区内の船舶の数の変化について」）

②今年はどのようなマップを作ってみたいか考えよう
⇒北上地区の３校（旧橋浦小学校，旧吉浜小学校，旧相川小学校）と旧門脇小学校では，東日本大震災の被害に，どのような違いがあったか予想させる。

(2) MEET 門脇と旧門脇小学校の訪問（見学）計画を立てよう【１時間】

(3) MEET 門脇と旧門脇小学校を訪問しよう【４時間】

(4) MEET 門脇と旧門脇小学校の訪問（見学）のまとめをしよう【１時間】

(5) 北上町の３校とは違う被災をしたことに気付こう（市教委「羅針盤」の活用）【１時間】

(6) まち歩き（にっこり地区）の計画を立てよう【３時間】

・北上総合支所　・にっこり商店　・北上駐在所
・松山観光バス　・多目的公園　・津波表示看板

■グルーピング（課題別，各１グループ）

Ａ：北上総合支所地域振興課防災部担当　　Ｂ：北上駐在所
Ｃ：にっこり商店　　Ｄ：松山観光バス

■取材の観点（基本的には児童の発想で質問内容を考えさせることとするが，以下の点について必ず着眼できるようにする。）

A 自然災害から人々を守る活動についてなど

B 地震（自然災害）から暮らしを守る取組など

C 被害を受けた場所であるのに，なぜこの場所に開店したのかなど

D 児童を乗せているときに配慮，努力していることなど

■インタビュー内容の計画立案（事前の予想を含む）

(7) にっこり地区歩きをしよう（インタビュー活動Ａ～Ｄの複線型）【２時間】

(8) マップづくりをしよう【５時間】

(9) 発表会をしよう【１時間】

(10) 振り返り【１時間】

成　　果

(1) まち歩きでは，東日本大震災で甚大な被害のあった場所に建設した店舗とスクールバス会社を訪問し，インタビュー活動を行った。この活動を通して，北上地区の発展と地域貢献に取り組む気概に触れることができた。従って，まち歩きは，地域に生きる人々の誓いと願いを知ることができる絶好の機会であった。

にっこり商店でのインタビュー活動

松山観光バスの職員と

(2) 児童にはマップの中に「重ねるハザードマップ」を取り入れようとする意欲が見られた。津波浸水地域と土砂災害危険区域に限定したものではあったが，マップに取り入れた。改めて次の２点に気付くことができた。「北上小学校を含めたにっこり地区は安全であること」，また「北上地区は津波だけでなく土砂災害の危険性があること」である。そこから，避難の仕方や避難場所の安全性を考える活動に発展できた。

津波到達高の表示
児童はスクールバスの車窓から目にしている

(3) 旧門脇小学校と MEET 門脇を訪問，見学する活動を取り入れた。津波被害が大きかった北上地区と，津波の他に火災も重なった門脇地区では，同じ石巻市内であっても，避難方法や校舎の被害状況が全く異なることに気付いた。児童は，比較する活動から，まさに自分事として捉えることができた。

課　　題

(1) 今回で２回目の取組であり，２年間を通じて，復興・防災マップの自校化に向けた基盤ができつつある。この取組は，将来のまちづくりの担い手を育み，持続可能なまちづくりにもつながるであろう。次年度から全ての児童が震災後に生まれた児童となる。また，当地区での震災を知らない教職員も増えると思われるので，「北上の過去に目を向ける」学習は，大変意義がある。今後も継続して取り組んでいきたい。

(2) 北上地区は，東日本大震災を含めて，これまでに幾度となく津波被害を受けているので，マップ製作に活用できる学習素材が多くある。復興・防災マップの取組には，まち歩きが不可欠だが，広範囲な地域の実態把握には，バス等の利用が不可欠になる。今後，移動交通手段を検討していきたい。

マップづくりに取り組む児童たち

完成した「未来へつなぐ復興マップ」

石巻市立万石浦小学校
（令和４年度復興・防災マップコンクール地域連携会議会長賞）

第４学年　総合的な学習の時間　（15 時間）

テ　ー　マ　「万石浦 地しん･津波 防災マップ ～万石浦地区の安全･安心のために～」（４年生 47 名）

ね　ら　い　自分が住む地域の安全に関する施設や，東日本大震災からの復興の様子や災害時の行動について知ることで，防災意識を高めるとともに，地域のよさに気付き，ふるさとを大切にしようとする気持ちを育てる。

指導の流れ

❶ 事前指導（２時間）

・事前の準備として，マップ作りの目的と活動のねらいを話した。昨年度同様，全学区を１枚のマップに仕上げ，いつも学校に掲示し，活用できるものを作ることを伝えた。

・社会科の「地震からくらしを守る」の学習と関連させ，学校の備蓄倉庫にあるものを調べさせた。家庭の備えに関しては，保護者へのインタビューを通して，備えていることや物についても自分自身で知ることにもつなげた。

・毎月の「防災タイム」で活用している「未来へつなぐ」を読ませ，マップに取り入れられそうなものを考えさせた。

・昨年度の４年生が作成したマップや他校で作成したマップを提示してイメージをもたせた。

・学校の取組で，石巻市総合防災訓練に参加し，家族と一緒にそれぞれの避難場所へ避難したことで，防災について考える関心や意識につなげた。

❷ 地区ごとのまち歩き（３時間）

・各グループに学区の地図を渡し，昨年のマップを参考にしながら，安全・危険な場所という観点でまち歩きをするようにさせた。歩きながらの気付きも大事だが，事前に見るポイントを決めておいたことで，目的をもってまち歩きすることができた。

・一人一人にタブレットを持たせ，マップに載せたい写真を自分たちで撮らせた。

・学校周辺のあさひ地区は全員で，その他の地区は，自分が住んでいる地区を中心に，後生橋・うしお方面，垂水・流留方面，塩富・万石町方面の３つのグループに分かれて，探検を行った。

❸ インタビュー（３時間）

・学校，地域，市，消防の方々にインタビューをした。学校の防災主任，地域防災連絡会本部長，石巻市総務部危機対策課の方，それぞれから直接話を聞く活動を取り入れた。また，BFC 活動でお世話になっている石巻東消防署の方に，手紙を活用してインタビューをする活動も取り入れた。

❹ マップ作り（６時間）

・地域の特性から，地震・津波に備えるという観点に絞って防災マップづくりに取り組んだ。

・石巻市のハザードマップ・津波避難地図を参考に，東日本大震災による津波浸水区域を色分けした。

・地区ごとに，どの写真を使うかを考えながら作業を進めた。どこが危険で，どこが安全かを具体的に記すことで活用できるものになるよう，下書きはペアやグループを組んで内容を吟味しながら書く活動を取り入れた。

・地図上に，「安全な場所」は青，「危険な場所」は赤，「避難所」は緑のシールで示したこと，その場所の写真と説明を貼る画用紙の色をシールとリンクさせることで，より分かりやすくなるように工夫して作成することを確認した。

・石巻市のハザードマップ・津波避難地図と，学区のまち歩きをしているときに見つけた浸水区域が書かれた掲示板を参考に，東日本大震災による津波浸水区域を色分けした。緑色が津波避難場所，黄色が 0.0m ～ 0.5m, オレンジ色が 0.5m ～ 1m, ピンクが 1m ～ 2m 浸水した場所であることを示した。

・津波からの「避難目標地点」を目立たせるために，大きな矢印で示したり，主要な場所のイラストを地図に入れたりすることで，小学生や地域の方など，多くの方にとって見やすい地図にした。

❺ マップの仕上げ（１時間）

・仕上がったマップを全員で見合い，足りない所や付け足したいことを話し合った。

成　　果

・１枚のマップにまとめることで，万石浦地域には，万石浦小学校，万石浦中学校，宮城県水産高等学校など，避難所となる場所が多くあること，鳥揚街道踏切，沢田入，法音寺などが津波からの避難目標地点になっており，それらの場所が安全だということなど，初めて知ることが多くあった。

・震災から 10 年以上経過し，防波堤ができたり，赤堀の整備工事をしていたり，復興が進んでいることを知ることができた。一方で，工事をしている場所が避難をする際には危険な場所であることにも気付くことができた。

・インタビューを通して，防災についての様々な方々の思いに触れることができた。その思いを受け取り，自分たちの安全・安心が，多くの人々の支えによって成り立っていることを体験的に学ぶことができ，自助・共助・公助について学びが深まった。

・万石浦小学校の児童が大切にしている「YKT」（やさしく，かしこく，たくましく）という考え方が，防災においても役立つと気付くことができた。

・「避難所，浸水区域外までの距離を示す表示が多いから，この地域に住んでいない人や外国の人もその表示を見て避難すればよいことを伝えていきたい。」「防災マップを地域のみんなが見てくれたら，災害が起きても安全に命を守れると思う。様々なところに表示して，もしもの時に安全に避難してほしい。」「公衆電話がいくつかの公園にしかなかったので，もっと多くの場所にあると役立つのではないか。」など，様々な気付きや発信する気持ちが芽生えた。

・防災マップ作りを通して，子供たちの中に，自分事としてとらえ，災害に備えることの意識が高まった。また，自分たちも役に立てることはないか考えることにもつながった。

課　　題

・地区の安全なところや避難場所は確認できたが，避難ルートの確認まではできなかった。鳥揚街道取揚げの踏切，沢田入，法音寺などが津波からの避難目標地点になっていることから，その場所までどのようにしていけばよいか，また避難する際の課題はないかなど，もっと掘り下げて調べたかった。

・これから自分たちの住む地域に必要なものは何かなど自分なりの気付きをもつ児童もいたが，全体で提案させ話し合うことはできなかった。

・防災マップを地域に掲示してもらうことになったが，地域のみなさんに発表する機会を設けるなどして，より多くの方々に活用していただき，さらに学びを深める取組を取り入れることもよかったと思う。しかし，感染症対策の観点からも時数的にも実施することは難しかった。

石巻市立大谷地小学校

（令和４年度復興・防災マップコンクール　東北大学災害科学国際研究所特別賞）

第６学年　総合的な学習の時間（46 時間）

「わかくさタイム（総合的な学習の時間）」の目標

自らの思いや願いを持ち，地域やそこで活動する方々との関わりを通して，主体的・協働的に学習に取り組み，粘り強く追究しようとする態度を育成する。学習を通して，自己の生き方を考えたり，互いのよさを生かしたりしながら，積極的に社会参画しようとする態度を育てる。

指導の流れ

	▽主な活動内容	▽共通体験リソース	▽アウトプットの方法	▽カリキュラムデザイン対象教科及び単元等
第一次（4時間）	▽津波避難のシミュレーションをしてみよう！ ※「石巻震災伝承の会」の方を講師に招いて体験学習を行った。学習した内容は以下の通りである。 ❶震災の伝承と教訓を学ぼう ❷津波避難のシミュレーション体験を通して，避難する際に大切にしなければならないことを考えよう（「ツナミリアル」体験） ……総合的な学習の時間 ❸防災グッズをつくろう 避難所での生活について考え，児童用椅子と段ボール，ごみ袋などを用いて簡易トイレを製作する。	▽出前講座［裏面新聞記事参照］ ▽通学路の危険個所 ▽下校時避難訓練 ▽登校班会議による危険箇所確認	▽ワークシート ▽段ボールとごみ袋による簡易トイレの製作 ▽お礼の手紙	▽理科（６年）……２時間 ・「大地のつくり」 ・「変わり続ける大地」 ・災害想定ハザードマップ ▽国語科（６年）……１時間 ・「防災ポスターをつくろう」 ▽社会科（６年） ・「政治のはたらき震災復興」 ▽総合的な学習の時間 ……１時間
第二次（6時間）	防災学習 ▽地域の危険箇所を考えよう ※地域の危険箇所について，家族や地域の方に聞き取りをして情報を収集する。タブレット端末を活用して，画像データを学級で共有した。 ▽水害での避難方法について考える ※東北大学災害科学国際研究所より佐藤健先生をお招きした出前講座を実施。水害避難の際には，校舎は避難場所に適していないということを学び，第三次避難場所である沢田山への避難について考える。学校から 20 ～ 30 分程度歩かなければならない沢田山へ避難した方がよいのか，学校に留まる方がよいのかを考え，さらに家族への聞き取り調査を行った。 ……総合的な学習の時間	▽避難訓練（沢田山への避難）	▽アンケートの集計と結果報告	▽タブレット端末を活用した画像処理及び情報収集 ▽総合的な学習の時間 ……６時間

★マップへの記載内容

浸水想定の５mの高さを実際に計測し，水害避難の際に本校校舎または沢田山のどちらに避難するのかという問いに対する自分の考えについて，学習前と学習後の変容をシールの数で可視化する。加えて，家族にも聞き取り調査を実施して，その理由も合わせて調査内容をまとめたものを貼付した。話合いの中で，避難を判断するタイミングによって変わるため，どちらの選択が「まし」なのかを考えなければならないという意見が児童から出された。この視点は避難誘導をする教職員においても大切な視点である。

第三次…5・6年合同による取組（40時間）	▽石巻のよさを伝えよう ※石巻の自然や観光資源に気付くために出前講座や校外学習を設定したり，観光協会等の資料を活用したりして，修学旅行で会津地域の方々に石巻について伝えるリーフレットを作成した。 ※出前講座や図書資料，聞き取り調査から得た情報を基にして，石巻のよさを伝えるリーフレットを作成する。 ▽ SDGs を学び，自分たちができることを考える ※出前講座での学びから，自分の関心のある SDGs のテーマについて現状を調査し，アクションプランを考えている。環境問題については，マイクロプラスチック問題について外部講師と一緒にリサイクル活動に取り組んでいる。平和問題については，北上川のヨシの繊維を利用した紙すきや，自分たちが栽培した植物で草木染めをするなどして支援活動に取り組んだ。 ▽防火ポスターをつくろう　※国語科（6年） ▽世界に目を向けて意見文を書こう　※国語科（6年） ▽環境問題を報告しよう　※国語科（5年） ▽「つなぐ・つながるプロジェクト」の実施 ……総合的な学習の時間	▽出前講座（オンライン含む） ▽図書資料 ▽リサイクル活動 ▽意見文やポスター等の製作活動 ▽修学旅行 ▽藍染め体験，草木染め体験，紙すき体験 ▽地域の方々との交流イベント	▽記録カード ▽お礼の手紙 ▽個人新聞 ▽リーフレット ▽プレゼンテーション（動画） ▽報告文 ▽意見文 ▽オンライン対話	▽国語科……6時間 ・事実と考えを区別しよう ・意図を明確にして聞く ・資料を活用して報告する ・表現の効果を考える ・記事の書き手の意図（写真と文章の関係） ・立場を明確にする ・情報を関係付ける ・プレゼンテーションする ・「町の幸福論－コミュニティデザインを考える」 ▽社会科及び理科 ……2時間 ・SDGs の取組と地球環境 ・SDGs の取組と国際貢献 ▽総合的な学習の時間 ……32時間

復興への取組・発信・エンパワーメント

取組における成果

コロナ禍における校外学習については配慮すべきことが多いものの，外部講師による出前講座を設定することで，地域で活動する人々と交流したり，助言していただきながら探究活動に取り組んだりすることができた。

取組を始めて２年が経過し，本校では「つなぐ・つながる」を合言葉に，防災学習，環境学習，国際協力を取組の柱としたカリキュラムデザイン及びカリキュラムマネジメントに取り組んでいる。

防災学習においては，児童は自分たちなりに「あの日に何が起こったのか」「これから想定される災害は何か」「どのように自分たちは避難するとよいのか」という視点で探究を進めた。特に，避難訓練では第三次避難場所である沢田山避難を経験し，水害の際の避難をどのようにしたらよいのか，出前講座を通して考え，さらに家族への聞き取り調査を実施しながら，命を守る行動について大人の意見も多様であることに気付くことができた。その状況に応じた判断やハザードマップの情報の活用などが大切であることを児童は学んだ。

また，環境問題や国際協力にも取り組んでいる。洗剤の詰替え容器の回収活動を通して，マイクロプラスチック等の問題について考えた。また，北上川のヨシを活用した紙すき体験や藍染め体験，さらには販売活動を通して，戦争のために医薬品等が不足している中東への支援に取り組んだ。（令和４年度の売上金は，大地震の被害があったトルコ・シリアに送ることにした。）SDGs の取組を実践しながら，カリキュラムデザインを行うことにより，それぞれの学びが相互につながっていることを確認することができた。そして，自分たちもまたつながりの中で生きていることを感じ取っていた。

さらに令和４年度は，学区にある道の駅「上品の郷」を会場に，「みんなの幸せを目指す大谷地からの発信」というテーマで生活科や総合的な学習の時間などで取り組んだことを基に，自分たちで地域に発信できることは何かを考えた。このイベントを通して地域の方々と交流し，地域復興・震災復興に尽力されている方々に感謝し，これからの「まちづくり」について共に考える場を設定することができた。その様子についても，マップに掲載している。これらの取組を評価していただき，第 10 回環境省グッドライフアワードにおいて，実行委員会特別賞子どもエンパワーメント賞を受賞することができたこともマップに掲載させていただいた。

実践上の課題

マップを作成する上で，児童の豊かな学びや活動をデザインすることはとても重要なことである。ともすると，マンネリズムを児童が感じてしまう可能性もある。そのため，変化・発展を伴うカリキュラムデザインの見直しが必要であり，そこに難しさを感じている。

現在，近隣の小学校や他県の小学校とオンラインでつながり，町の未来について考える学習を実施している。「つなぐ・つながる」は手段であり，それが目的ではない。そこから学びを創り出す創造的思考こそ，授業者が身に付けなければならないと考えている。